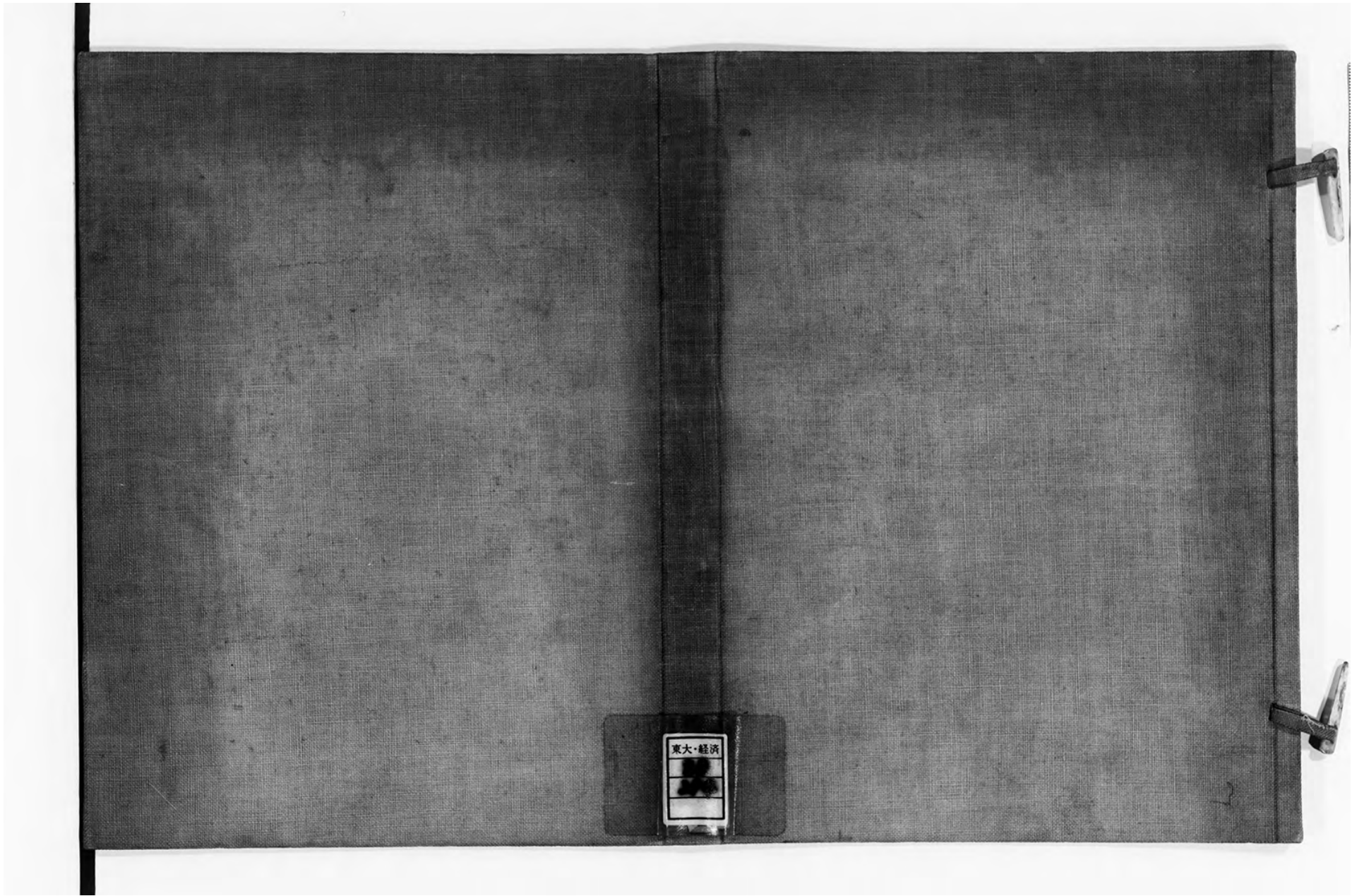


## 近世・近代社会経済資料（古文書）デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する近世・近代社会経済資料のうち、古文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。文書原本の朱書や裏書、端裏書、裏継目印、前欠・中欠・後欠の部分、丁間に挿入された文書や脱落した付箋については、画像内に「朱書」「裏書」「端裏書」「裏継目印」「前欠」「中欠」「後欠」「挿入文書」「脱落付箋」などの置き札を写し込んであります。また、原本が破損し撮影が不可能な場合や、白紙が何枚も続く場合には、「以下破損につき撮影不能」、「以下〇丁白紙につき撮影省略」などのターゲットで明示してあります。
- (5) 画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものととして了解下さい。写りの悪い文書については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (6) 文字間のコントラストの差が大きなものについては、視認性を高めるために、照明を調整して複数回撮影しています。この場合は、同一の丁の画像が複数枚連続して表示されます。
- (7) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (8) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 25 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 258061 の交付を受けて作成しています。



東大・経済



東京大学  
経済学  
研究  
室  
80  
294

正享問答  
濟廠畧記  
関廠賑粥法



経済

36602

112  
735







正享問答

三丁元禄の初故捨遺世山迄疾走と平タル時僕多ク賀茂山ノ  
ホトリニ在リシテ文成ノ通ヲ稱シ玉フアリ當時ノ急務奉行代  
官ノ処置ヲ爲シ玉フ仍テ藤村息游ノ遠キヲ歴覽シ是ヲ抄出シテ  
二編ヲナシ西江一政ニ編畧ト名付嗣君ニ授ケ玉フ十数年ノ後  
志ノ奇小濱明府佐渡ノ回ノナリ玉フ京路ノ修進マセ玉ヒ今シク  
此道ヲ講シテ其職ノ当務ヲ爲玉フニ君ノ民ヲ親ニ玉ヘル治蹟今ニ  
至リテ世証歌ス僕マタコレニ答ヘ侍リシコト共ニ具ニ記シ置ケルヲ  
此コト又時務ノ当務ヲトヒテ其記ヲニシテ求メ玉ヘル人牧アリ故ニ  
其記ヲ再校シマケルニ目前ノコトヲ以テシ合テ一編トスアヘテ位ヲ

出ルノ謀ヲナスニアエ其任ニタレル人ノ向ハ答ルニ年比見ウ付一  
ヲモテスルノミ然ハイト記シテ辱ノスルハ憊罪ナキニ非ス是也  
今ノ序代芻蕘問ハセ玉ヘル威徳ヨリテ其罪ヲ忘レ侍ルモレ  
邠君ノ不用ヒ玉ヘルヲ生民万一ノ益アルヲ得ハタトヒ罪ヲシクル  
トアリ臣才短ノ幸ニアラズト云ヤ

于時享保十六年

三輪布賢六十三記

免ッ人ヲ用ユルニ造劍守成ノ時ヲ考テ其才ヲ其地ノ用ニ  
ハ各其可ニ当リテ人ヲモソクオズ事滞リナカルヘシ夫人聖  
徳ニ非ルヨリハ必其當否ヲ免ルカラス造劍ノオアルモノハ  
守成ニ害アリ守成ニヨシキ人ハ造劍ノ功疎ルヘシ人君タル人  
自分先ツ偏倚ナキ中ヲ執リ玉ヒ其民ヲ親ムノ良知ヲ致シテ  
此二人ヲ以テ一人トシ各其所ニ用ヒ玉ヘル寸ハ聖人ノ治モ  
今日ニ行ワルヘシ丸ノ天下ノ事ニ十ヨシニヨラサルハナレ若シ  
地方ノヲ以テ云ハ、多年凡俗アシク田地ヲモアラス  
更ハ安住ニ淫シ農ハ懶惰ニ成タル寸ハ造劍ノオアルモ  
ノヲ用ヒテ吏民ノ眠リヲ覺マサスルニアラズンハ旧

弊次シテ改ニルヘカラス其效ヲミテイワミテモ  
コレラモ午ヒハ又民タヘスレテカナラス騷動モヲヨセ  
不改前ヨリモガルヘシ二年モ経テ又守成ノ材ヲ用ヒ  
テ寛恕ヲ治之ハ人知シ民安堵シ太平實ニ致スヘシ  
タトハ病人ノ外邪食毒ニアヘル者ニハ先ツ發散吐瀉ノ劑  
ヲ用ヒテ急ニ其病ヲ去リ又速ニ調理シテ其虚ヲ補フヘキ  
カ如シ子路冉求孔門ニテ共ニ政事ノオアル大賢ナレ  
トテ子路ハ造劍、堅シク冉求ハ守成、堅シカルヘシ二人ヲ  
其時所用ヒハ孔子全徳ノ政ナスヘシ然ルニ二人ニ十孔  
門仁ヲ求ル學ヲシテ心術ヲ研ケル人ナレハ後世俗知ノ

オアリト思ヘル類ニハアヲサルヘシ民ノ一ハ治教ノニワニ出ル  
トナシ治ハ地方ノ取箇ニテ其詳ナルトハ末ニ論ス孔子モ  
庶アリテ治メント玉ヒ民ノ衣食ノエタカナル様ニスル  
ト才一ニ既ニ治リテハ教ヘント玉フ教ナケレハ禽獸ニ  
ヒトシ教ナケレハ上農ハ富ヲ以テ華侈ノ一ニ用ヒ或ハ  
金山陸濱ナトノ世俗ニ所謂山仕ト云者ニナリテ先業  
ヲモ失ヒ下農ハ博妻或ハ佛事ニ投テ一身ヲ失フクニナラス  
其風俗多年ヲ経テモ改カタクニ是ヲ以テ教ト云フ一日モ  
カクヘカラス元来治ハ教ニシテ教ハ即治ニツクニ非ラス今ハ先  
治スル時節ニテ教ハ後ノ一ナリト云フアラズ然ルニ後世ハ教ヲ

ナストイハハ早小學ノ法呂氏ノ御約ナトヲ持来リテ  
其效レヲイソキ息キモナラヌ様ニ是レ皆是陋儒困滯ノ  
徒ノ所ニテ聖人ノ趣ニアラス夫小學ノ如ク如キハ当时  
死迄ノ所ニテモ中々及ニ非ラス夫ヲ今迄放擲無懺  
ニ生ヒ立タル者急ニ責ムルナハトセ成レ得ルトテモ皆死  
法ナレハ民心鬱レテ情不伸生モクシテ枯槁ニツキ  
物ヲソコナヒ衰世ノ氣象トナル故ニ社日或ハ土産ノ神  
祭ナトニ踊リ相撲ナトヲ元シテ舞ヲ演サシメ生モ及  
古セシムヘシ鄉人追雉ナト戲ニ似タルヲ周礼ニ定メ之  
玉ヒシモ誠ニ深キアルナリサレト鬼神國志ニカクノアルナリ又ハ

邪神ナトヲトリハヤシ或ハ狐ヲ稻荷ト称シテ神  
明ヲケカシ蛇蝎ヲ明神トシテお祀セシムル類ケカ  
ラウレキナド也昔童女ノ像ニ衣冠ヲハ着セタルヲ伊  
川先生人ノ衣服ヲ禽獸ノ毛又ハキニ非スト戒王ニハ誠ニ難有  
教ニヤ但古ヨリ人民ニ功德アル鬼神ヲ祀ヒ祀リ其神ノ縁起ヲ  
去テ其功徳ヲシラシメ共恩沢ニ服セシムヘシ此意ナキ人ハ政  
イハハ早小學ノ法ヲ持来リテ是氏迄ヲ責ソズルストナレハ  
狐蛇ヲモおモ奇恠ヲ仰ヤテ迷ヒモ生セシム人ハ威場淫坊  
ナトヲ感シニシテ所ハ繁昌ト云故ニ民鬱セサレハ迷ヒ迷ハ  
サレハ鬱ス是皆其才ノ迷ヒ深ク利欲多キ故ニ凡俗ヲ

朱書

乱り民ヲ害ヒ終ニ國家ヲ乱ル可悲トナラスヤ夫操  
ツリ美居人形ハハレト一年ニ一度五七日宛ユルシテセ  
シムルモ可也シカレ共操リニ昔物語ノ忠臣孝子ノ故事  
烈士貞女ノ事蹟神明感應ノ正シキ類ヲハ故事ノマ  
マニシテ邪法ヲマシヘスコレヲナシテ見物セシムヘシ世ニフ  
ルク云傳ヘタル曾我物語孟塚物語楠兵成ノ故事ナト  
有テイノ事ヲナシテナシテ好善惡ノノ誠心ヲ興起セ  
シムヘシカリヌメニモ今様ノハヤリ淨理ナトハカタ  
ラシムヘカラス迄鄙ノ土民ナトハセメテ如様ノ事ナラ  
テハ古ヘノ忠臣義士を見聞フハナキヲ子受ノ子ナラ

名ニ作りカヘテ古人ニ疵ヲ付ルナト輕キ戯ケレノ故  
ニテモ一キ重キヲ

テ必誅シテユルサ、ル所ナリ先惣辨ヲ此心得テ其所  
ノ古老實儀ニテ農作ノ精シキ者ヲ撰ニテお忍ノ僅ノ杖  
持ニテモ与ヘテ若キ者セユラシヘシメ折ノちり所ヘモ呼ヒ  
善人ノ好ヒテ説キカセ心中ノ善人善子ノコトヲタツ子  
又アクナルモノアル少法ヲキツハ其見ヲサセ或ハ呵ラセト常  
ニ心カクヘシ教トテ俄ニ儒者ナトヲ呼ヒテ講釈ナトセシムヘカ  
ラス先ツ手習ノ師ヲ氷ノ手跡ヲおハシメ先ニ六論衍義ノ解  
四言教ノ解ナトヲ讀キカセサレ志ノ興ルヲミテ四番ナト



朱書

ヲモ学ハシムヘシ左程ノ類アリハカナタヨリ進ニ出テ学ハ  
ント願フ者少キ又ヘシ急ニ責ムルヲナカレ教フ者先ツ  
訓蒙大意ヲ讀シテ其趣ニ子才ヲ<sup>導</sup>カシメ耕作ノ事  
貢納ノ重キヲ之小兒ノ内ニテ熟セシムヘシ

納税ノ事

夫年貢ヲ収ムル恩惠ニテ先トシテ獲ルヲ後ニスレハ百姓  
足リテ貢納滞ラスタトヘハ茶園ヲ治ルカ如シ芳シキ茶ヲ得  
ント来ルニハ亦年ノ冬寒ノ内ニソノ根ニ糞ヲヨクシテ  
其上ニ<sup>覆</sup>シ霜雪ヲ防キハ春ニ至リテ其芽ヲ発スル事  
厚ク芳氣ヲヨク同シク裁タル<sup>畝</sup>ノ内ニテ取所倍ニ

表較茶葉目

コレヲ並スルニ及テナカシ用ヒテモ氣ヲヨク味濃ニシテ他  
ノ多キニマサル故ニコレヲ糞ルニ至リテ<sup>價</sup>必貴シ夏ニ至リ  
テ又其<sup>踏</sup>ヲイウル葉ヲ摘ミ取ルハ<sup>口</sup>一又重子テ  
出ルヲ摘スレテ是ヲ<sup>残</sup>冬ニ至リテテラノレト落  
ルニマカセ置ナハ元來痛ム<sup>ク</sup>ナクシテ来年ノ<sup>生</sup>  
又必盛ナリ年コトニ此ノ如クスレハ利ヲ得ル<sup>ク</sup>多シテ上園ト  
ナル若又<sup>当</sup>鉏ノ費ヲイトセテ糞ト<sup>覆</sup>ヒトセサレハ<sup>其</sup>  
至リテ<sup>生</sup>生ヲソク其<sup>葉</sup>スル芽モ<sup>瘦</sup>同シク植タル<sup>畝</sup>  
畝ノ内ニテ<sup>其</sup>ノガキニモ及ハス用ユルニ及<sup>テ</sup>多ク<sup>並</sup>  
テモガキニモ劣レハ價ニナセトモ甚カロシ其<sup>踏</sup>夏

朱書

の末、爰スルニ當テテラ悉ク摘取禿ニスレ共ナラ不滿  
是ヲ以テ元來傷ニナシケテ來年ノ發生ニテ惡シク治第  
ニ瘦テ其國年々荒ハツク其時前ノ者ハ不足シテ搖  
シテノ過タル宮トハ思ハスレテ運ノアレサト土地ヨカラサル  
故ヨ天守ノアレキカト言テ外ノミ咎メテ已ニ有ル事  
ナシ夫前年ノ糞ト爲トニ錢ヲ不吝ハ前ニ惠ムニ茶枝  
取不盡シテ已ラ跡スホ獲ルヲ後ニスル也此ナレハ  
地肥附墾シテ利ヲ得ルヲ多シ能此送ニヨルヲヨキ尤  
團ト云夫茶園ヲ作ルモノハ皆已ラ知ラ已レ錢ト能シケハ  
借り来リテモ前ノ者ヲ十サハルハナシ是老國ハ國ヲ治ル

取ナレハナリ郡主代官ハ民ヲ治ル取シテ己ヲ弁ヘ  
シル人ツギハ何ヤ國治マラサルハ茶園ヲ枯スノミシテ民命  
ニ害ナシ郡主代官ニシテ是ヲシラサルハ民ヲ苦シメ人ヲ  
ソコナフヲ取前ナリ天心ソレ如クソヤ夫聖人ノ學存  
ヨリニ道ナシ心ヲ治ン身ヲ修ルヨリ妻子ヲ御シ臣妾ヲ  
待シ人オラ育シ太平ヲ極スニ至ルマテ此外ナカルヘシ  
コレマメ收納ノコヒラ云ノミ始ニマツ民ヲ肥ニ糞ニカ  
ラ卷シテ深ク耕ヘシサメ糞シムルハ私賣カナラスエタ  
ニカシテ升目モ多ク味アツク潤ヒ多クテ酒肆ナトニ賣  
用ユルホトニ價モ必ス他ヨリ安シ其收ムル寸道ヲ定メテ

朱書

有餘ヲ取不尽殘シテコレヲ存スハ又来年ノ耕作ニ  
糞ノカヲ用ユルコトヤスク後ハ民富テ國用ユタカニ  
ナル彼酷吏ノ目ヨリ其民ノ富ルヲミテ其代官ノ支配  
所ハ取箇甚多ク今一寸モ二寸モトナル所ヲ宥  
過タリ是亦姓ヒイキ也ト云彼三番ノ茶ノ葉ノ大ニ  
ハビヨリテ盛シナルヲ見テアノ盛ナル葉ヲ拾シ其大十  
ルツイヘ也宥免過タリト云カ如シ然ルニ其三番ノ葉ハ形ハ  
大ニシテ葉ニミコレニ插用ルニ字舊ク味ナシシテアタニモ  
ナラス人々居ルニツイヘテ取タル者ノ益ハ成ラスシテ元本  
ハ甚傷ムカ如シサレト上ニ居ル人明治昏ミテ民ヲ親

シムノ仁心ヤク欲心フカク眼前ノ利ノミヲ見テ彼酷  
吏ノ説ニ惑ヒ死セラシク取ナス故邦君ハ下ヘ去リ内澄  
ノ曲折ハシロシメサ子ハ先彼ニ一庶セシメテ命シ玉  
フ故彼酷吏本望ノ通り其職ヲ奪フヲ好テ先  
ノ考ヘモナク心一杯ニ虐シトル本ヨリ下地肥タル百  
姓故物成ノ負數不足ニテモ吾物ヲ足シ又畜ヘ置  
タル衣類道具ヲモ棄後ハ妻子ヲモ棄テ出サ子ハ成  
程モクロミノ通り一寸モアカリ又川溝ニ前ニサテ  
置タルハ物入モナク諸子捨立ホトニ取箇ノミ多ク納ル故ニ  
其頭役モコレヲ稱シ邦君モ褒美玉フ此時ニ至リテ始ノ

# 朱書

良吏ハイヨクユダシニ成シ然レニ後ノ酷吏ノ多ク聚メタルハ酷吏ノ功ニマシ及<sup>ホ</sup>富盛ニ仕タル良吏ノ功ナリ故<sup>ニ</sup>氏ノ餘<sup>リ</sup>凡内二三年ハツケトモ其高ヘ至タル財ノ甚<sup>ク</sup>分ヨリ漸<sup>ク</sup>衰廢シテ定メノコトク年貢ヲハカル<sup>テ</sup>モ不能<sup>ク</sup>テハ手錠<sup>ヨ</sup>水牢ナトイタ<sup>ク</sup>苦しムハムゴキ<sup>テ</sup>故<sup>ニ</sup>田地ハ年ヲ逐<sup>テ</sup>瘦<sup>ク</sup>溝洫ハ次第ニ淺ク成リテ少シク旱水ニモ痛<sup>ク</sup>甚シク其田ハ荒ニツキ民心憂<sup>ヘ</sup>憤リテ衰弱ナル者ハ病ヲ生シ或ハ自滅シ傲強ナル者ハ盜賊ト成上<sup>リ</sup>敵シ法ヲ犯ヌコレニ仍<sup>テ</sup>刑罰ヲ炭ニシテコレヲ罰スハ一応ハ治マレ<sup>ド</sup>心ヨリ服セヌ<sup>ハ</sup>其惡ヤマス

今ノ下疑有脱文

孝ナリシ子モ不孝トナリ慈ナリシ父モ不慈トナリ五倫皆崩レテ風俗アシクナル天下盜賊多クナル是<sup>レ</sup>今ノ根元也然レハ彼酷吏ハ上下ヲ扱スル咎人ナレト一時ノ功ニヨリテ褒美ニモア<sup>リ</sup>下ヨリモ取持故<sup>ニ</sup>家モ富手代家未<sup>ダ</sup>ト奢<sup>ク</sup>極<sup>テ</sup>モ從<sup>テ</sup>餘<sup>リ</sup>有<sup>テ</sup>テ<sup>ノ</sup>納<sup>ル</sup>實<sup>ハ</sup>都<sup>府</sup>ラ劣<sup>レ</sup>リ年ヲ経<sup>ル</sup>後<sup>ニ</sup>酷吏ノ惡モ漸<sup>ク</sup>ニ成<sup>ル</sup>レトモ元来ハ見<sup>テ</sup>取<sup>持</sup>タル人ハ其事ノ違<sup>ス</sup>ルヲイヤカリ<sup>テ</sup>途<sup>ニ</sup>テ色<sup>ミ</sup>ト術<sup>ヲ</sup>メク<sup>ク</sup>ラシ<sup>ク</sup>場<sup>所</sup>カヘ<sup>テ</sup>ラサセ<sup>テ</sup>其<sup>レ</sup>賄<sup>ハ</sup>ハ物柔<sup>ナル</sup>人ヲ撰<sup>ビ</sup>老<sup>ク</sup>ヌ<sup>ク</sup>彼<sup>レ</sup>柔<sup>カ</sup>成人<sup>ニ</sup>實<sup>ハ</sup>志<sup>アル</sup>人ニテモ<sup>モ</sup>民<sup>財</sup>ハ取<sup>カ</sup>ラン<sup>ク</sup>凡<sup>ソ</sup>俗<sup>ハ</sup>ア<sup>レ</sup>シ<sup>ク</sup>盜賊<sup>ハ</sup>都<sup>府</sup>ナ<sup>リ</sup>タル所ナ

朱書

ナレハ一兩年ノカニ中トトカス其時酷吏ヒイキ  
ナル者今時ハ中トト物柔カニテユクニアラス儒者ナ  
ドスレハ柔カニ成テ役ニタハ又ナト言テ其咎ヲア  
サグナルホト柔カーペンニテ政ノナルベキヤウナン  
夫ハ剛バカリニテナラヌ同事也故ニ道ハ中ヲ尊スカ  
タヨレハ皆害アリ然レニ後ノ治マラヌハ柔ラカル者ノ咎  
アラス前ノアツダテ姪タル酷吏ノ咎ナリ儒者ハ柔  
ニシテ役ニタハ又ト云モ理ナキニアラス其イヘル儒者ハ  
各物ノミ多クヨミ覺ヘ俗人ノシラヌ管子ノ韓非子ノ  
ト云昏物ヲ取ダシ知ニホヨリ傲氣ノミ甚クシテ

性根ニ守ル所者ヤ左様ノ者ヲ儒者ナリト心付ルハ聖道  
ニ不案内ナル者ニ去儒ノ政ハ大學ノ一章ニテモ天下ヲ  
太平ニスヘシ今志アツテヨク身ヲ忘レ君ニ忠アル臣代官  
ニ其法ヲ教ヘテコレヲセシメ玉ハ二三年ハ痛ニ引レ  
テ其功ニハサルモ有ヘケレ本ヨリ下地ヤミク仕崩サマ  
野ナラハ三年目ヨリ其效見エヘシ下地ニヨリテ遅速ハ  
アリ凡三年ヲ経テ大抵其效ナクンバアラジ何レニテ  
先当然ノ急ヲ救ヒテ民ヲ安セシメ儲以中ヲ巡見シテ  
池ヲ浚ヘ水ガリリ水吐ヲ順ニシ冀ノ手当ヲナシ  
漸ニ教ルニ孝悌ヲ以テシ上ニ事仁徳ヲ述ラセド土



朱書

地ハ下田モ上田トナリ人ハ奸民モ良民トナリ  
争訟オエラス盜賊ヤミ四年目ヨリ取箇モ五石ニヨ  
クナリ米空シケレハ升目モ多ク價モ貴ク民ノ餘慶モ  
出来テ太平安ニ數スヘシサレハ孔子モ先有司教ハ過譽  
オトノ至ヒマタ無欲速無見鬼小利ト教ヘ五フ今仁厚ノ良  
士ヲ擧ニ又宥庭ナリ手代ニ命シ百姓ト示シ令セ勸シテ民ノ為  
ニ害ヲ除キ利ヲ興シ水路ヲサテ莫ヲヨクシカセキ  
作ラシメハ譬ハ高百石ノ地ヨリ百五石モ出来又ヘシ  
夫ヲ上下ニ四分<sup>六分</sup>積リニ四十一石余上ケ又民ニ六  
十三石余モ玉リ<sup>タ</sup>ヨリ上ニ一石餘モアカル是民饒カニ

シテ君モ<sup>ト</sup>ヨリ富玉フ<sup>フ</sup>ニ然ルニ代官モ手代モ必  
ノ教モ<sup>ト</sup>ク惜濃ニマカセ立寸ハ百石ノ地ニテ九十五石  
出来又ヘシ夫ヲ四分六分ニスハ是モ上ヘ三十八石余納  
マリテ二石余モ少シ民ハ五十七石受レハ是モ三石分  
ノ損アリ是民不足シテ君復キ也ソレシ彼酷吏ハ上ニ  
ル廿八石ノウヘ不足ヲ民ノ五十七石余ノ内ヨリ二石  
モ取立ル程ニ君ニ四十石納ルトミレハ民ハ五十三石ヲ  
受レハ定リタル四分六分ヲダニ全クハアラス彼良吏  
ノ取箇ハ上ニ四十二石納リテ民ハ六十三石受是ハ日  
頃ノ教ハ能故ナルヲ酷吏ノ目ヨリ民ニトラシムル<sup>フ</sup>多

# 朱書

シト云ハ大ナルヒガ目ナラスヤ此上ニ民ハ狩アゼニ大<sub>豆</sub>  
ヲウヘ荒地ニ木ヲ植サセテ弥富ヤウニスヘキコヤ是コ  
父母妻子ヲ鞭フナレハ惡心起ルヘキ棍ナシ百石ニテ  
五石ノ作り出しバ十万石ニテ五千石也是ヲモ四分六  
分ニ別チテ民ニ三千石ヲタヘテ上ニモ二千石納メル  
然レハ盜賊ヤミ争訟オコラス道橋水邊迄ヨク成  
テ民莫ミ移ルコト目前ノ事ニ○或云民肥タラハ奢  
弥甚シカルヘシ惣ニテ百姓ハ蒿菜ニテ髪ヲ結ビシミテ  
总ルヘキ者ガ今ハ江戸元結ニテ髪ヲユヒ伽羅ノ油  
迄ヲ付侍ル如此ノ奢リヲ止サセタラハ多ク取テ上

納ミ不滞シテ昔ノ如クナルヘキハ如何予答曰奢ハ民  
ノ肥タルニヨレルニ非チ其地政代官ノ奢ニ出テ其所以ハ  
地官代及奢レハ其子代召仕モ奢ルハ其妻子モ華侈ニシテ  
又其下人臣モ衣類飲食皆分ニス久是皆民ニ取ツテスル  
コトナレバ愚或ハコレヲ羨ミテ日々其風ニ移ル然レハ百姓  
ノ富ヲ侈ルコトモナキニハアラスソレハ只富スハカリニテ  
教ヘト礼トノナキ故ニ教モ礼モナケレハ上流ハ其六  
財ヲ國家ノ事孝悌ノ用ニ立ルコトヲ不知シテ茶ノ会歌  
舞鞠誹諧ホノコトニ費スハヨキ分ニ惡シキハ博奕游女  
ノ控ニ費ヤシ欲淫キモノハ大ナルコトナリテ其財ヲ

# 朱書

亡ホシ後ハ有来レル田地ヲモ賣屋數マテモ失フ者  
シシラス下農ハ半建立六十六部ノ納任巡神ヤト  
イフテニ妻子ミテラビテ乞食ノ類ヒモナレ農事ヲ  
年貢ノ助ハ一粒ヲ争ヒ佛ノト欲ノタメニハ財ヲ不惜  
シテ又貧ニ迫リテ果ハ身刑ヲ受ルニ至ルモノ毎年  
ニ災千ワカアラン是皆富ノ咎ニハアラズ礼ト救トノ十  
キ故也此町法度禁制ハカリニテユククニ非テス百姓貧  
シクハ奢ルミシトイフモ愚カナル論ヤ天下之士モ貧ナレ  
ハ侈ヤムヘキナレ近世諸士上下共ニ貧ニセテレ  
人多ケレト奢リハ近世ホド盛ナルトハナキニテミルヘシ

根本ニ目ノツキツル政ナクテハ飯上ノ蠅ヲ追フ類ヒナル  
ヘシ百姓ハ蒙ニテ髮ヲエヒツ、サノミヲキルモノト極  
メテ少シノ餘計モ上トトリ上ント言モ不仁至極ノ  
論ナルヘシ惣シテ百姓ニ限ラス七八十年近ハ大名  
モ今ノ平士ヨリハ質素ナリシト古老ノ言ニテシリタル  
ト也夫ヲ以テ當時ニ準スベカラス百姓トテモ全シ人  
間ナレハ礼義ノ風ニハ移レタキ者ナレ氏卒ニナシクモ  
孔子モ可由之トハノ玉ヒレ也唯ヨク民ヲ富シメテ能  
コレヲ教レハ貢納不滞シテ其家ニ於テハ父兄ニ孝悌  
ヲ心一杯ニ盡シ先祖ノ祭祀ニ奉テ報シ川浚ハ水道ヲ

# 朱書

能シ道橋ヲモツクロヒ餘リニテ貧窮ヲ救ヒ往來ノ  
旅人マララ直ニ争訟ヲ起スラ原然ルホドノ風俗ニハ  
五七年ノホドニハナルヘキ事也夫ニテモ今ニテ納メ  
來レル年貢ヨリモ甚ダツキニ至ラサルヘシメテハ今  
ノ高免ハ三年ノ貢ニシレハ益アル概ナレ共五年平均  
シテミレハ必定前ノ下免ヨリスクナカルハシ今高一万  
石ノ所物成四千石アルヲ五分取上レハ百五石多ク成  
タルトミユレ尺高免ニシレハ作<sup>△</sup>るヲトリテ渡世スル百姓  
モ家内ヲ荒フニタラサ地持タル者ヲ作徳ツク共不手  
廻シニ成地ヲ賣人トイヘハ田地ノ價ヒモ下直ニ成リ

小百姓モオラ賣出ル者多クシハ作人少ク目ニハミヘ子尺  
イットナク地荒テ上田<sup>△</sup>下田<sup>△</sup>下田<sup>△</sup>年貢高キ故イット那ク  
ナリレ所多ク下田トナルハ上田ハ年貢高キ故イット那ク  
作りサケタル故ニ本下田<sup>△</sup>成<sup>△</sup>處今多ク上田ト成ハ年貢  
輕キ故ニ年貢作り上ル故ナリ是又天運ノ自<sup>△</sup>然トモ云ヘシ  
是、由テ毛見取ノ所ハ眼前ニ不出來ナレハ取箇年ニ  
下リタル定免ノ場ハ一旦受タル故ニ否ト云フ法ハス  
シテ納ムト云ヘ尺サレノ凡早水換<sup>△</sup>レニ毛見ヲ顧ヒ  
代官往來ノ費少ナカラス何分以上ハユルスナド云法ハ  
アレ尺元來困窮シタル概子ヲミテハサノ事ハ用捨

朱書

モセ子ハナラス又此序テニハエタカナル所ヲ皆與ニタ  
テ、其礼ヲ受ル役人モ有り目付ヲ付ケテ老ハセハ其  
目付世ノ野謂結搦人ナレハ諸事代及役人ノミニ由ルセ  
テ詮モテ夫ホドノ物入ノカサナリタル迄ニ收納ノ益  
モナシ又酷剥ナル者ナレハ己ガ功ヲ立ントテ踏難我ヲ  
思ハズ又ハ賂ナドヲ受ケテ結句ノ害甚シシ往來ノ及ナ  
トニテ檜柄ヲ言テ洛次飯料ヲモ弁セス私<sup>ミ</sup>通<sup>リ</sup>リタ  
ルニアリ上ノ賈ト民ノ村入用ト一倍スソレ共ニ本途  
ノ物成ハ動カサレ又夫食ヲ顧ヒ又是ヲカサレハ目前  
饑渴スル故ニ是ヲ貸ス三年ニ上納ト定ムルニ其内又水旱

ナドアレハ又今ク貸リカルホト二年ニ區隔シテワレ  
強カ上ニカサナリ又レハ或ハ人ヲ欺キ貸リタル物ハ返  
サス所地ヲイレテハ無理ヲ云々遂ノフニテハ得ルナ  
キ故ニ三笠ナド云博奕ノルイノフニカ、リヤイ印テ  
少シモ未レル物ヲモハキ取ラレ思<sup>ハ</sup>與<sup>ハ</sup>世<sup>ノ</sup>債<sup>ノ</sup>仲  
乃ハ入故ニ惡心長シテ不義ノ所ハ妻子ヲ賣世ト惡  
人多クナルハ是共根元也其本ヲフサガシテ盜賊ヲ  
驅ノミニテハ腐肉ヨリ虫ノ生スル如ク何ホト取捨テ  
モ腐肉アラシ限リハトマルヲナカルヘシ其本ヲ<sup>辨</sup>シテ  
シテ是ヲ清メハコレヲトムルモ亦其難支ニアラス



# 朱書

在上人先其欲ヲ去テ朝廷ヲ清クシ、コレニ次クニ  
人々不忍ノ政ヲナシ玉リ、大國ハ七年小國ハ  
五年十ト遲速ハ有レトモ文武ノ政今日ニ十スヘカラ  
サランヤ故ニ孔子モ子之不欲蚩賞之不盜トノ云ヘルハ  
誠ニ迂濶ノ論ニシテ、至外人之欲深クナレルヨリ  
堤或ハ川除普請ノルイ追夥シク費アルニ使ト民トノ私  
曲ヨリ税ノ物入有之其品々ノ費ヲ五六百石ノ地ニテ  
引拂ヒテ却定セハ必定五六分ノカ免ハ銓十キヲナル  
ヘシ仍數モヲミレハ後世代及ノ高免ハ名バカリニテ  
實ナシ取箇ユルミタルトナレハ其役頭ノ方ノ首尾アリ

ク又定レル通りニ取立ントスレハ百姓躁動ニ及フヲ以テ  
風旱水損ノ所ヲイ、立其外ニモ松ノ引道ヲ立テ、  
ニテ合スル人モ有リ主人ニ對シテ陰クラキ祝ナレト  
責テ已ニテ行ワル、也近年処々損毛多キハ是其一  
ツ也然レハ今ノ高免ハ虚名テ下ノ痛ハ所ハ實也然  
レハ民ノ困苦シテ跡ノ治メニテ憂ヲ残スレハ限ナシ  
是ハ高免ニナリタリト云モ記録ニ載テ後世ニ傳フル  
一仁政ノ算ニアラス一寸モサケテ民相和シ争訟オ  
コラス盜賊ヤミ記録ニノセテ万世太平ノ名ヲタニ  
後ノ世ノ鑑ニ成ヘキハ人君必ス是カ為メ惜ミ玉

フヘキニ非ラス又民心ヲ損シ争訟多カラシメ盜賊ヲ  
盛コシ不仁ノ名ヲ天下万世ニ傳ヘテシカモ國用益  
費多キヲ能ク鑑ミ玉ハサルヘケンヤ其有聚斂之  
臣寧有盜臣トノ訓ヲ省ミ蓄害ノ並ヒ至ラントラ恐  
レテハヤク小人ヲ退ケ玉ハ、太平不日ニ致スヘシ○向  
取箇ヲ減シテ堯舜仁政ノ真似ヲセハ万民ノ悦ン  
ト明白ナリ夫ハ手取ノ積リモナク家中トミ物多クク  
ルト同意ニテ悦フコトハ明白ナレトモ左税コセハ左程勝  
手ツマリテ後ハ其家中ヲ扶持スルコト不能子才者  
フコトモナラスシテ一同ノ難儀タルヘシ殊更今ハ下

地空虚セル上ニ目前ノ入用ども多ケレハ君タル人民  
ヨリ収メシテ何方ヨリ生スヘケンヤ曰是「一理アルコト似  
テ安論也堯舜仁政ノ子ト朝リテ紂暴虐ノ真似  
を好ミ玉フハ為り成コトヤ聖王ハ茲米タマワル士不勝手  
ナリタリ其主人ヨリ考<sup>録</sup>遂<sup>録</sup>ヲ減シ貸<sup>録</sup>之方第世所々考ミ  
其上難キナルホトニ四ツ物成ヲ五ツニシテ玉ハトハ  
イハレシ只自分ノ費用ヲ減シ<sup>初上</sup>債<sup>初上</sup>ヲ持<sup>初上</sup>テヨリ外ハ十  
キコナリ下地也<sup>初上</sup>密<sup>初上</sup>ナレトテ外ニ求ムヘキ屋ナケレハ或ハ  
家ロラヘラシ衣被ヲ儉シ礼義ヲモ省キ妻子自ラ  
薪水ヲトラハ貧ルコトナク世々程勝手モナサルヘシ

天下ニ於テサハ荒政ノ法有周礼地官大司徒救荒之法有年二貧糶食輕租稅寬賑  
人息徭役公無禁利闕市不記殺吉禮者凶  
礼閑藏無器不備礼而多昏常鬼神陰盜賊  
仁徳帝ノ宮殿ノ破レテ捨テ民ノ貢ヲユルサセ玉ヒ北  
條康時ノ筑地ノ崩レテ不補シテ民ヲ哀レシナト万世ノ  
濫ミナルヲ思ワスシテ目前ノ利ニフケリ悪人ノ跡ヲ真  
似レシヲナケカハシカラスル 聖人ノ政ナレハトテ考ヘナク  
取箇ヲ減シテ民ニアタヘントニハ非ヌヲノスカラ定式有  
之若民共ニ空シキ法ヲ定置テヘリ其古法ヨリモ多クト  
ラントスルハ桀紂ノ邪政也又其古法ヨリ少ナクトラント  
云ハ夷狄ノ偏方ニ上タル人華侈ニ費スサハ十分カニラ

取リテモ糶不足古法ニ从ハ十分カ一ニシテモ三年ニ  
一年ノ餘分アルト聖人ノ初定之○曰十分カ一ト云ハ唐  
ノ古ハ井田ノ積リト少ニ後世ハ唐ニテサハニシテ猶不足  
ト云ヘリ今日本ノ制ニ叶ハス儒者ノ古説ヲノミミテ實ヲ  
ヲツトメサル空論ハ行ワルハ一ニアラス曰是眞儒ノ論ヲキ  
ク託誦ノ徒ノ説ヲ儒ト覺ヘタル誤ニ今誠ニモラ論セン  
日本ノ古均田租庸調法ハ上古ノ事ヲ三テ我ホソノ詳アル  
ヲキカス當代四分六分ノ稅是唐ノ土ノ稅ニカナヘリ  
トキクイカントナレハ和漢ニニ上代ハ士農ト分レズ人皆  
農ニテ出テ仕レハ士ト云退テ帰レハ人皆農ニテ下役

ヲ勤メ夫里ノ布カ役ノ征ナト品ハノリナリ其上唐ハ多クハ  
地廣ク民少シテ三年ニ一年宛地ヲ休メ置ホトノリ日本  
ニテモ上方關東ハ地ノ廣狹民ノ少多甚カワリ奥州薩  
長トトハ今トテモ所ニヨルヘケレ尺多クハ地甚廣ク民甚  
少キ故ニ十分ノ税ニテモ行ワルヘレト言リケレハノリ共  
ヲ考ヘテ積リミレハ今ノ四分六分ノ税ニ当ルト云モ故ナキ  
ニアラス詳ナルハ井田考ト云谷ニ出ツ事長ケレハ畧  
之〇四分六分ノ税ト云一何ノ各ニ出誰カ立ル法ナル  
ヲシテ又其旨ヲキカン答云此説何ノ各誰ノ言ニ出タルハ  
ラストイヘ尺理ヲ以テシテ推セハ至極ノ法也我曾テ

古老ノ説ニ聞ケリ日本古法六十間四方ヲ一丁ト云六尺五寸  
一丁ト云一丁ハ一畝ハ三  
百六十坪共十分カ一ヲ一畝トス一畝ハ三百六十坪  
是堂臣家ニありテ三百坪  
ヲ一反トス是亦唐ノ  
井田後ニ一六ノ耕ス所也一坪一分ノ米ニシテ是ヲ積ツノ三石六斗ナリ  
一年三百六十日ノ數ニシテ一日一分宛テタル其半ヲ上ニ納  
メ殘ル半ヲ民ニシテ受是一石八斗ニシテ一人五合ツ、ノ  
扶持米ニ依餽ナトヨリ仕立運艘ノ物入カリ物ヲモツテ  
一分ナリ玉リテ四分ヲ上ニ六分ヲ下ヘト分ル也是上中  
下ヲ平均シテ定メタル者ニ土地アシキカ凡其外ホノ  
變アレハ從其上ヲユルシテ減シ玉フニヨリテ免テ賜フト  
云ナルヘレ是其大畧也上田ハ一人ニテ一反ヲ耕セハ下田

ハ二人ニテ一及モ其餘モ作ル是ハ作人ノカト地面トニヨル  
ヘシ多ク耕ヘシ作りテモ分致カワリテキ故ニユツリ合テ  
平均セルモ也然レニ坪蒔春法シテ見ルニ一升モアルモ有  
一升三合モアルモ有又七八合モモ不逞ルモ有是其中分ヲ取  
テ大法トシタル者シ然レハ一升ニ合モノ所ハ物成四合ハ夕  
取テモ慮ニアラス若又八合モノ所ハ四分六分ニテ上ニ合  
ニ夕下ハ四合ハ夕ノ積リテ凡四合ハ夕ニテ一人ノ扶持ニ不足故  
ニ五合ニテ上ニ三合取ル是定法ノ四分六分ヨリシレハニ夕  
ユルニ至ル也○曰民一人一日ニ五合ヲ夕ヘテ上ヘ七合取ヘ  
キトヤ如何曰理窟ニテイハハサルトナレ凡元来土地ハ君

ノ土地ニテカハ民ノカ也故ニ地ノヤセテアシキ所ハ民ノ谷ニ  
アラス然レハ夫ホトノ宿免ハ有ヘキ也若土地ノヨキ所ヲ  
惰農ノ作りサケテアシク仕タルハ罰アルト也勸農使  
ハ此ノ為ニテ今ノ代官其役也或ハ又序田ヲ良農ノ  
ヨク作りナシタルハ夫程ノ受アルヘクシテ全体一村モ能  
シタルハ庄屋名主年寄ナトノ功ナレハ是モ亦賞アルヘシ  
夫下田ノ上田トナルハ智慧才覚ハカリニテハ不能冀メ金銀  
ヲ入レ夫多ク用ヒタル故ナレハ元来民ノ已カカニテ君ノ地  
ヲ上田トナシタルト也然レハソレホトノ褒美アルヘキトナ  
ルヲ出来カク望キトテ有カキリトルハ義ニ非ラズ



況ヤ物入ラシテ能スレハ出来タルカキリ皆上へ取ラル、  
トナラハ誰カ精カラ用ヒテ作ルコトラセン然レハ年ニ作り  
サケテ上田深多クミ下田ト成ルハ必定ナリ下田ト成テ合毛  
少キヲ多クトラント云ハ甚度政也然レハ後ハ皆一全一  
下田トナリテ全国ノ高ニテハ大分ノ損失タルヘシ且又田地  
ハ永ミノ物ナレハヨク作りテ上田トシタルハ百姓ノ上ニテ  
ノ大ナル忠義ナリ或ハ王ナラハ加増ヲモ玉ハルヘキヲ却テ  
迷惑ナスルコトハ天道ニ背ケルコト是ヲ以テ見レハ上田ヲ  
作りサケタルハ大ナル咎ニテ刑スベキコトナレ代官ノサレシ  
取箇ノコトヨリ水カリ水吐キナトヲ詠 心人モ和シ

カラ合ス程ニシテモ作りサケタルハ衆人ノ罪ナレハ減シ  
罪ヲモヲ、スヘシ冀カ不給教ハミナク外事ニノミカハ  
リテ身ヲリ川除水ノ挂落シテシクテ損シタルハ代官  
ノ咎ナリ百姓ヲ刑スベキニ非ス前ノ跋ニテミレハ四分六  
分ノ法ハ何ノ辱ニ出誰ノ作ルヲシテストイヘ凡至極的当  
ノコトニ曰然ラハ大和ノ國ナト其外ニモ七八九或ハスクミ  
十トニテ十分ミトルハ度政ナレハカ曰是ハ一際ニ論シ  
カタシ元来高免ハ云ハ段ニ子細ナルコト也下免モ如  
此スクミトテ十分タシテハ百姓ハ何ヲ可食ヤ然レハ只土  
地ノヨキトイフ計ニハアラス赤部ニテ東寺九條ナト云

定ハ系中丁ノ老ヒ水魚者ノ洗ヒ汁ナト雜水ノ落  
合所ニテ自然ニ糞トナリ地道ニ能肥ハ極ル所ノ物皆能  
出来テニモモトリ京中ニ一里ニモ夕ラ又程ナレハ持出ル  
ホトノ物皆錢ニナリ藁ニノモハシルノナクシクモ價ヒ能ウ  
リ悪水ニ高味川ノ流レハ修理ニ不及是故ニ凶年トテ  
モ少モナシケ祝ノ処ハスクニト云程ニ取テモ民痛ニスル  
トナレハ米ニカクワラスレテ民ノ得ル所ヲ四分六分ニシテ  
ミレハ米ノミニテモ四分負ミ当ルヘシ同シ一里計リニテ  
モ京城ノ北ニ当ル方ハ糞水蒸込ノナキ故ニ又劣レリ  
無レハ其土地ニヨリテナレハトクト見分シテ地理水道諸

物ノ優等ニテヲ能ク考合セテ取圍ハ付ヘキコ  
煙中帝油木綿桑薪炭臭燻野菜ナトノ積物成テ  
本ヨリ別ニシテ取所ニアリ又ハ本途ノ物成ノ中見込  
テ取モアリー又ハ地廣キ故ニ餘分アリテ高免ナル所モ  
アリ是ハ地押ラシテ免ヲサノ餘分ハ夫亦ト別ニシテトル  
ナルケレ氏夫ハ容るハスミンキコナレ夫ニテハ姑クヨル高免  
ナル程ニ非ス何レニモ金作ノ物成テ積リテ四分六分ニ割付ル所  
ハ八九分ニテ什一ノ税ニ当ルヘシ元來税ヲ定ルハ民ノ衣  
食屋作先祖ノ祭リノ物入等迄ヲ積リテ定メル者也如レハ少  
餘分アル税ニセサレハ不叶ト也ソレヲ積ルナクモ未レ限リ取上

ルハ天造ニ習キタル也唐ノ法ハ君ノ田地又民皆作  
人成リた上中下田ヲ毎年入替テ作ラシムルニ然ラサレハ上田ノ  
民ハ利ヲ得テ下田ノ民ハ老ニ貧シ毎年入カズハ三年平均ニテ  
皆同子也且本モ肥前平テトハ世類トカヤ其外ハ大方ノ民ノ買  
受名田地ナル故ニ二三ノ所モアリ五六ノ所モリ不同也至安ヲ不考シテ  
法ニ法ハ必ス支テ行フテ能ハハハハカ不考過ヲ不記テ日本ニハ  
行レ又ト云ハ古墨成テ仁政ハ国ヲ治ルノ根本ニテ禹王ノ定玉ヲ  
ルヨリ始ニ三代湯ニニテワリ至至才一ニコレヲ述玉トスレハ儒者ノ  
事業ノ才一也不考儒者ト儒者ハシテ又ト云者トハ其ニ要門  
ノ罪人トラスヤ○唐ノ取國ハ三稅也夏代ノ貢殷ノ代ノ助

周ノ徵法皆皆シカタハカワリテ收納ハ大稅十分一ナリ  
貢法ハ今ノ定免ナリ但田ハ公儀ノ田ニ若人一人亦十畝ツ受  
テ其作徳ノ十分一ヲ貢ス一畝ニ米ニ升出米ル所ナレハ二十畝ニ  
シテ十石ナリ年ノ豊凶ヲ平均シテ中分ヲ以テコレヲ定メ其十  
分一ノ一石ヲ上ニ貢シ殘ル九石ヲ百姓ニテ受テ豊年上ニ多  
クハトラス凶年トラモエルスナレ上代洪水ノ初ナレハ田地モ少  
ナク又民モ淳ニテ偽リモナク礼文モ未起故ニ衣食家作  
ノ好シモ沆物游宴ノ費も佛法故世ノ迷ヒモナケレハ是ニテ足  
ル有餘ノ財ハ自然ト畜ヘト成テ凶年ノ備不不足ナレタ  
ト也不足有テモ人ニ貸テ用ベシ返隔モ不滞若シ滞

トモ責ハタルニモ至ラス一郷一家ノ思ヒヲナシ然レ  
テリ彼人ノ勞村入用費モナシ玉極ヨキ法ナリ然ルニ久  
シキ及テハ風俗モカワリ世々モ奢ルニ送ヒ民有餘ノ財ヲ  
蓄ヘ至フモナリ有レ倍テツカフ故ニ凶年ニハ必ス飢渴ニ及  
者有之人ニカリテハ区スフモ必スナル借シタル者モ責  
ハツレハ争訟起リテ眞法表へ出奉ぬ又土地モ廣ク田  
地モ沃野ニ多ク成リ力有レ其法ヲ立替テ井田ト云フヲ  
定玉ヘイニシヲ名付テ助法ト云夫世ノ中文華ニ成ルニ後  
ト姓ノ五十畝ノ作位ニテハ民不足ニ量ラセテ七十畝  
ツラアタヘテ作ラシム其法六百三十畝ニ及レテ四角ニ

取ツテ其内豎ニ二筋横ニ二筋井ノ字ノ如ク溝ヲツケテ  
コレヲ分テハ真中ト四方四隅合テ九区トナル一區コトニ  
七十畝也<sup>七</sup>真中ノ七十畝ヲ公儀ノ市田地トシ外廻リノ七十  
畝ハハツテ八家ノ衆人銘ニ受ケテ己ヲ私田トシ其廻リ  
ノ八家ニテカヲ合ツ先ツ公儀ノ市田地七十畝ヲ作りタテ己  
ヲ賣シ外ノ者六十畝ヲ相互ニ助ケ合セテ作り銘ニ受タル七  
十畝宛ノ出来る作位ハ皆他リトリニ相互ニ助ケ合テ作ル  
ユヘニ助法ト云但一畝ニ二斗宛出束ル積リナレハ七十畝ニテ  
十四石ナリ己ヲ不殘法一夫ニテトル夏ノ九石受タルヨリミレ  
ハ五石多シ仍之八家ノ百姓互睦ク貧困相救疾病相

扶風俗ト成是故ニ後人ノ勞モ村入用モナク能治マルニ至  
極ノ良法ナリ然ルニ又其久シキニ及テハ民心利ニ走ルテ甚  
シクシテ公田ヲ疎畧ニシ己ノ田地ヲ才ニシ而クノ内ニモ  
己ハ供シテ人ヲ勞セシムル風ト成行キ公田ニ兩降りテ我  
私ニ及ホセト云概テ目出度凡俗モ失セハテ争訟起ル  
概ニナル是又時勢ノ当然ナリ故ニ周ニ至リテ尚又其法  
ヲ改メテ其變ヲ通ヤリ此時ニ至リテハ土地モ甚多ク而ケ  
世モ益文明ニナリ礼義モ備ルニ付テ民ノ物入モ多クテ  
前ノ七十畝ノ作徳ニテハ從不足故ニ又増シテ一夫ニ  
百畝宛ヲ受シム是亦田地ハ公儀ノ田地ニテ公田ト云

別ニハ不立惣高九百畝ヲ八家ノ兼打込ニ作りヲキタル所  
ノ米ヲ九ニ分ケテ一分宛上ノアケ踏ル八百ノ物成ラ八人ハ  
分テ取走トテモ掛リモノヒケモノハ是亦畝歩ニテ公田ノ内  
ハカクル故私田ハ全ク百畝ノ稅ヲ受ケテ公田ハ大方八十畝ノ  
積リナル故其實ハ十分ノ一ト云モトニ当ルコトニ因テヲノ  
ンカラ公儀ヲ次ニ私ヲ才一ニスル心モヲコラス人ヲ勞シテ  
己レハ供スルノ風モヤミ平等ニナリテ地方取箇ノ法コ  
コニ至リテ全備セリ是周ノ二代ニ監ニテヨクク變ヲ通  
シテ五ハル明法也尚民ヲ五ニテ子ノ如クセル所ハ三代  
一意少シニ替ルテナシ如此三代色ニ替ル凡聖人

ノ意ハ民ノ別心出ヌ又祝ニ在事フ心ノ起ラヌ祝ニト云所ヲ  
主意ニシテ立タルモノ故ニ人ヲ差ハシモ見ホラスル事  
ナケレトモ偽モ手召モイラヌ公事訴訟モ起ルヲナケ  
レハ元箇方ナケレ臣法ナリヒケテ出入ナケレハ却定  
全体ノ仕上ニテハ自然ト公儀ノ収リ全シテ其財ハ府  
庫ニ満テモ為人モイラヌ万民ヨリマモリテ其  
財ニ非サルヲナシ是ヲ不以利為利以義為利ト云  
後世收納ノ仕方ハ井田ニ似タルヲ社倉平價ニ似タル  
ヲ有之大君モ民ヲ憐レミ玉ヘル仁心ヨリ起リテモ其役  
人タル面ニ至學ニシテ或ラ甚々予ヲ嫌ヒ己カ小人ノ心

三ノ己ヲ善ト思ヒ何トシタシハ一依モ多ク收マルヘキ  
トノ見テ正シク人ノ傷ミニナルヘキヲハ色ノ術手  
クテラヌルニハ民其情ヲシリテ其キヲヲモコバミテ  
受ルヲナシ又或ハ同シ民ノ内ニテモ巴カ利ノ為メニ仲  
立ヲハツレテ名ノ内意ヲイヒテ上下ヲ欺ク者アレ  
ハ彼人モ夫ヲコトラセテ又巴カ利ヲハカル故ニ上下躁動  
シテ果ハ乱國トナル其本タル明德親民ヲ外ニシテ  
外物財利ヲ内ニスルヨリ民ヲアラソヘテ棄フヲ施スノ  
是皆以利為利ノ禍ニアヤ堯舜ノ百姓不親  
五品不遜ヲ患ヘサセ玉ヒタル旨ヲ以本トシ夏殷



周三代ノ内ニテバカリ今ノ時ニ宜キヲ用ヒハ懐乎ニ  
テ国家治ミルヘシ国財ハ山ノ如ク成テモ土藏ノ  
蓄人モイラス役人私曲ノ世話モナク津浦ニ迄用意ノ米  
フリテモ直ヒハサテ下直ナラス上一令ニ樂ミヲ受ル政  
ナルヲ用ヒ玉ヘル人君ノヲワセ又ハイカニソヤ夫国家  
ニ長タル人君ハ財用ナトヲ務メ玉フ鄙シキ事ハナクワセ  
又ヲ彼聚斂ノ臣トモハ木ニ銚ノナル松ニイヘハ夫ニ迷  
ヒ玉ヒテ其臣ヲ用ヒ玉フニヨリテ災害並ニ至ルヲシ加シ  
メサス後ハ善者ヲ擧テ玉フ凡属ミテアフマシハヤクコハ  
口付テ改メサセ玉フヘキヤ与共有聚斂之臣寧有

盜臣ノ戒備ニ難有<sub>レ</sub>也<sub>レ</sub>曰云貢法ハ今ノ定免ト  
イヘリ孟子治地莫不善於貢トアレハ定メハ甚アシキ  
法ナル歟善云是ハ一偏ナル論ニ孟子ノ説ハ其時ニ南  
リテノ説也貢ハ元來夏ノ世ノ制トソレ程アシキ事ヲ禹王  
ノ如ク玉フヘキ松ナシ其心孟子モ國中什一ニシテ自  
ラ賦セシメ下ノ玉ヘリ自ラ賦トハ貢法ノ事ナリ是  
定面ナリ國中ハ却ナレハ民ノ利ヲ妨ルル事ナレハ  
定免ニシテモ凶年ニサミテ儉寒ノ憂ヒナキ事ナリ都テ  
民ノ利ヲウルヘハ前ニ述タリ也<sub>レ</sub>テ子丑寅ノ正月  
ヲ改ルモ古昔三正互ニ用ユト云テ其契ヘアル寸ハ

必ス改ムヘシ一法ヲ以テ万世不易ト云ハ固滞ノ見也  
サレト改ムトテモ此三宅ノ外ニ不出王荆公カ祖宗不足  
法ト云ル様ニ多法ニ十批ハ三宅ノ外ニ出テ至法ノ  
規ヲ商レタル今和法ニ用ル所ハ俗ニイフ定免毛見  
采色取及取届取十所ノ内ニ有又諺ニ手足ノ爪ト  
リト云ハ能キカゲンニトリ深クトレハイタミ深クシレハ物ニ  
カハリテ却テアヒキト云心ナルヘシ是トテモサレノヒ過タ  
ルハ害ナシテ深ク取テ傷ムハ眼前ナリ紳ト考フ  
ハシ扱毛見取ヲスルニモ品ニアリ坪苜春法ト云フ  
ラシテ米ニシテハカリミルニ其一坪ト云ニ一間六尺四五尺

方ニ棹ヲ入レテ其内ヲ刈取僅カ一穂ノ出入ニテ  
一坪ノ内ニテ一合チカハ一及ニテハ三斗チカヒ万石ノ  
上ニテハ木ノノコ金コレヲ平カニスルノ才一ノ故棹ヲ  
入レ或ハ繩ヲ引トテモ畝ノ堅横ニハ引スレテ節過テ刈ヒアリ  
只役人ニ戒テ平カヲ守ルヘシ厚ノ奸ヲスルモ下役人ノ盛ラシ或ハ賂  
ヲ求ルモ此時ニアルヘシ其品ハ論セズ密ニ今ノ人情時勢ヲハ  
カリミレハ必ト所トハヨルハケレモ多クハ定免置レサルヘシ  
サレト其仕方アルヘシ定免トイハハ民ノ物入大分違フ故ニ  
至物入ヲ積リ去テ年貢ノ方ハカヘテ免ヲ高クスル故ニ人  
心モ服セマ代友賊ノ者モ高免ニスルヲ忠義ト心得テ民

ノ怨ノ上ニ歸スヲ不知已カ当分ノ首尾ノタメニ万民ノ  
苦ミヲ不省心ウキテ定免トシテ毛見ノ時年ニ用ル  
村入用ノ少ナキヲ民ノ所得ニサセテ定免ヲ定メハ民安  
心シテ豊凶ハ有<sub>レ</sub>滞ル<sub>レ</sub>モナク年限ノ如ク皆先敗レ  
ス少<sub>シ</sub>ノ<sub>レ</sub>毛見モ不願夫食ヲ貸<sub>ル</sub>セ<sub>テ</sub>イ<sub>フ</sub>マ<sub>シ</sub>代<sub>ナ</sub>ラ  
差<sub>シ</sub>添<sub>テ</sub>檢<sub>見</sub>ヲヤル<sub>ト</sub>ノ費<sub>少</sub>ナキノミナラス<sub>テ</sub>ヤ<sub>レ</sub>物  
静<sub>シ</sub>テ<sub>テ</sub>宜<sub>シ</sub>カル<sub>ヘ</sub>シカク定<sub>メ</sub>成<sub>ル</sub>寸<sub>ハ</sub>奸<sub>惡</sub>ナル<sub>役</sub>人<sub>ハ</sub>  
所<sub>務</sub>ナキ<sub>流</sub>ニ<sub>名</sub>ノ<sub>ノ</sub>ヲ<sub>多</sub>姓<sub>ニ</sub>ス<sub>ル</sub>者<sub>モ</sub>有<sub>タ</sub>ト<sub>レ</sub>  
吏<sub>刑</sub>ヲ<sub>加</sub>シ<sub>ト</sub>モ<sub>改</sub>マル<sub>予</sub>有<sub>ハ</sub>カ<sub>ラ</sub>ス<sub>者</sub>ト<sub>ナ</sub>レ<sub>ハ</sub>内<sub>ノ</sub>  
曲<sub>第</sub>ハ<sub>上</sub>位<sub>ノ</sub>人<sub>シ</sub>ラ<sub>又</sub>予<sub>ニ</sub>テ<sub>テ</sub>奸<sub>術</sub>ノ<sub>多</sub>ク<sub>マ</sub>シ<sub>キ</sub>ハ

明知モ及<sub>ラ</sub>ズ<sub>ニ</sub>非<sub>ラ</sub>ス<sub>然</sub>ル<sub>ニ</sub>共<sub>ニ</sub>奸<sub>術</sub>ニ<sub>欺</sub>カ<sub>レ</sub>マ<sub>シ</sub>テ<sub>テ</sub>奸<sub>術</sub>ヲ  
ミ<sub>出</sub>サ<sub>シ</sub>ト<sub>思</sub>フ<sub>是</sub>ハ<sub>奸</sub>意<sub>ヲ</sub>マ<sub>ヌ</sub>カ<sub>レ</sub>サル<sub>所</sub>アリ<sub>タ</sub>ト  
七<sub>千</sub>万<sub>ノ</sub>奸<sub>術</sub>アリ<sub>一</sub>ツ<sub>ノ</sub>正<sub>直</sub>ヲ<sub>引</sub>立<sub>レ</sub>ハ<sub>共</sub>奸<sub>皆</sub>才  
ホ<sub>フ</sub>テ<sub>不</sub>能<sub>シ</sub>テ<sub>テ</sub>奸<sub>ナル</sub>モノ<sub>モ</sub>後<sub>ハ</sub>恥<sub>テ</sub>心<sub>服</sub>ス<sub>ヘ</sub>シ<sub>其</sub>  
正<sub>直</sub>ハ<sub>每</sub>欲<sub>ノ</sub>人<sub>ナ</sub>ラ<sub>テ</sub>ハ<sub>シ</sub>リ<sub>カ</sub>タ<sub>ル</sub>ル<sub>ヘ</sub>シ<sub>我</sub>部<sub>賤</sub>ニ  
居<sub>テ</sub>吏<sub>民</sub>ノ<sub>奸</sub>邪<sub>ア</sub>マ<sub>子</sub>ク<sub>見</sub>及<sub>ヒ</sub>テ<sub>リ</sub>何<sub>程</sub>奸<sub>佞</sub>ナル  
モノ<sub>モ</sub>每<sub>欲</sub>ノ<sub>人</sub>ニ<sub>對</sub>シ<sub>テ</sub>其<sub>術</sub>ヲ<sub>行</sub>フ<sub>テ</sub>不<sub>能</sub>コ<sub>レ</sub>ニ  
由<sub>テ</sub>コレ<sub>ヲ</sub>思<sub>ハ</sub>ハ<sub>三</sub>代<sub>ノ</sub>法<sub>皆</sub>每<sub>欲</sub>ヨ<sub>リ</sub>タ<sub>テ</sub>其<sub>時</sub>  
ニ<sub>ニ</sub>シ<sub>テ</sub>万<sub>民</sub>ノ<sub>奸</sub>心<sub>ノ</sub>生<sub>ス</sub>ヘ<sub>キ</sub>道<sub>ヲ</sub>塞<sub>キ</sub>タル<sub>者</sub>也  
サ<sub>レ</sub>ハ<sub>毛</sub>見<sub>取</sub>ル<sub>所</sub>ニ<sub>ケ</sub>レ<sub>共</sub>奸<sub>吏</sub>ノ<sub>奸</sub>ヲ<sub>行</sub>フ<sub>ハ</sub>多<sub>ク</sub>

ハ毛見ノ時ニ有<sup>レ</sup>然<sup>レ</sup>ハ今ハ先ツ定免<sup>ル</sup>カ<sup>ル</sup>ヘシサ  
レト各欲ニテ民ヲ親<sup>ム</sup>所ヨリ建立セサレハ<sup>其</sup>使  
ヨリ先手前ニ奸心生ス<sup>ル</sup>ヲ人ヲシテ奸心生セサ  
ラシメン定免ヲ極<sup>ム</sup>ル<sup>ル</sup>意思何トソシテ民ノ為ニト  
思ヘ<sup>レ</sup>臣俄カニ多クモユル<sup>レ</sup>難<sup>シ</sup>セメテカ<sup>リ</sup>物ナト  
ノ費<sup>を</sup>適<sup>レ</sup>シタル<sup>ト</sup>少<sup>ク</sup>益<sup>ニ</sup>モナラントテイツモノ  
收納ノ方ユ入テ取ント云ハ元来君子タル人ノ心ニハ非  
ラス<sup>ル</sup>斯<sup>レ</sup>テ<sup>テ</sup>於<sup>テ</sup>マ<sup>タ</sup>セ<sup>リ</sup>ア<sup>ケ</sup>テ<sup>子</sup>タ<sup>シ</sup>ナ<sup>ト</sup>テ<sup>色</sup>ニ<sup>ノ</sup>  
ラシカケテ<sup>テ</sup>取<sup>納</sup>ケ<sup>テ</sup>極<sup>ノ</sup>聚<sup>斂</sup>ノ<sup>臣</sup>盜<sup>賊</sup>ヨ<sup>リ</sup>ハ甚<sup>ニ</sup>ク<sup>キ</sup>  
者ナラスヤ<sup>カ</sup>ノ<sup>如</sup>ク<sup>互</sup>シ<sup>キ</sup>定免<sup>ニ</sup>シ<sup>テ</sup>モ<sup>十</sup>年<sup>モ</sup>経<sup>レ</sup>ハ

又<sup>生</sup>ス<sup>ヘ</sup>シ<sup>左</sup>根<sup>ノ</sup>ナ<sup>ハ</sup>見<sup>計</sup>シ<sup>イ</sup>テ<sup>又</sup>毛<sup>見</sup>取<sup>ニ</sup>モ<sup>ス</sup>ヘ  
シ<sup>各</sup>状<sup>ニ</sup>カ<sup>マ</sup>ヘ<sup>テ</sup>一<sup>方</sup>ニ<sup>究</sup>ム<sup>レ</sup>ハ<sup>必</sup>ス<sup>其</sup>法<sup>死</sup>法<sup>ト</sup>成  
テ<sup>又</sup>獲<sup>アル</sup>ハ<sup>シ</sup>今<sup>五</sup>分<sup>モ</sup>免<sup>ラ</sup>サ<sup>ク</sup>テ<sup>定</sup>免<sup>シ</sup>極<sup>メ</sup>ハ<sup>民</sup>  
心<sup>落</sup>付<sup>テ</sup>上<sup>ラ</sup>敬<sup>マ</sup>フ<sup>心</sup>出<sup>来</sup>疑<sup>ヒ</sup>惡<sup>ム</sup>心<sup>中</sup>少<sup>ク</sup>  
<sup>ト</sup>ハ<sup>快</sup>ク<sup>受</sup>ケ<sup>テ</sup>夫<sup>倉</sup>モ<sup>オ</sup>シ<sup>ス</sup>堤<sup>川</sup>除<sup>ナ</sup>ト<sup>ノ</sup>ニ<sup>奸</sup>術  
ライ<sup>タ</sup>サ<sup>ス</sup>上<sup>ミ</sup>ノ<sup>物</sup>入<sup>ハ</sup>決<sup>定</sup>減<sup>ス</sup>ヘ<sup>キ</sup>也<sup>民</sup>困<sup>窮</sup>ス<sup>レ</sup>ハ  
人<sup>多</sup>物<sup>ヲ</sup>貸<sup>テ</sup>モ<sup>返</sup>ス<sup>ト</sup>不<sup>能</sup>後<sup>ハ</sup>甚<sup>ニ</sup>成<sup>テ</sup>ト<sup>カ</sup>ク<sup>貸</sup>リ<sup>タル</sup>  
物<sup>ハ</sup>返<sup>サ</sup>又<sup>管</sup>ノ<sup>様</sup>ニ<sup>思</sup>フ<sup>今</sup>時<sup>土</sup>民<sup>ノ</sup>ミ<sup>ナ</sup>ラ<sup>ス</sup>歴<sup>ニ</sup>ノ<sup>上</sup>  
ニ<sup>モ</sup>ケ<sup>根</sup>ノ<sup>凡</sup>アル<sup>モ</sup>有<sup>甚</sup>ク<sup>ナ</sup>レ<sup>ハ</sup>盜<sup>ト</sup>成<sup>争</sup>云<sup>々</sup>ハ<sup>ス</sup>テ<sup>其</sup>  
村<sup>所</sup>ノ<sup>物</sup>入<sup>カ</sup>リ<sup>物</sup>ハ<sup>強</sup>ク<sup>求</sup>テ<sup>其</sup>人<sup>ハ</sup>其<sup>事</sup>ニ<sup>付</sup>

テ必賂ヲ貪レハ惡事日ニ長ス一人ノ惡人ヲ刑スルニ  
モ上ノ物入アルトシケ税ノコヲ積リシハ五六分ナド免  
ノキヨリハ費ノ方部テ多ケレハ干害見込タル高免  
モ益ナクテ民ノ苦ミ風俗ノ敗レ多ク果テハ天災ヲ致タス  
嘆スヘキノ甚シキナラスヤ君タル人少カハ一寸モ五分ノ玉ヲ  
ヘキ故ニ民ノ傷ハト云フ君前ハ政ニ民能ハレマ  
アリカタクナルトトイヒビダマシ困ミノ沙汰アルナハ貧  
困ヲ言立ルハ百姓ノ口クセニテ嘆ハユタカトテ色ニ  
証拠ヲ引テ君ヲ欺キ民ヲ虐ス痛メシキトシ今五分ノ  
取箇ヲ減シテ五年ニ正シ惣高五分ノ高キニ

劣ルナクシテ天ノ災不<sup>災</sup>三民ノイタミナク盜賊ヤシ博  
奕ニ笠付ナトノ法度モ必スリワレテ貢納ノ憂ハガシモ劣  
ルニシ全國ハ過分ノコトナレハ一郡ニテ試玉リマシクシレヌ  
ヘキトシ然レ是ニ科其人ヲ招テ行ハルヘシ此方ヲ割テ  
利害ノ法モリニテ是ヲヤハル必又行ワルヘカ又其行ハ  
レヌオニ此法アシキナトイワンハ猶以テオロカナルト故ニ  
政ヲスルコト在クマヲ取ルニ身ヲ以テストイヘリ。○或尙王  
制ニイヘル三年耕有一年之食ト云フハ今日日本ニ  
テハ存シモヨラヌコト何トツ行フハキ仕形モアラシカ曰  
本ノツモリトハ替リタレ尼成ホト唐ノツモリ程ハ

アマサルヘシ王制ノ法ヲ考レハ十分一ノ年貢ナレハ  
高一万石ニテ成物千石也三年耕シテ三千石也其ノ一石  
石ヲ三年耕シテ七百五十石ヲアマス也高一万石ノ所ノ  
所納現米千石ナルヲ四分ニシテ二百五十石ヲ畜ヘテ  
貯テ七百五十石ヲ一年ノ老用トス其畜ヘタル二百五十  
石ヲ三年ツメハ又七百五十石トル是三年耕シテ一年畜ヘ  
アルトイフモノ也日本一万石ノ高ニテ四千石納ルナレハ  
至現米四千石ノ内ニテ一年現米二百五十石ヲ除キ餘シテ  
畜トシ貯ルニ千七百石ヲ一年ノ用トスル也是程ノ一ハ  
ナルマシキニモアラズ然ルニ式ト法トナクテ金銀タニアレ

ハ小身ノ面ニモ餘ト度、無リ、スル、成、又、ル、故、ニ、不、勝、手  
ナル人モ知行高全シキ人ハ其真似ラスル程、成、モ、シ、キ、ハ、奴、女  
ノ、延、也、對、ト、テ、事、ト、レ、シ、ラ、サ、又、モ、ノ、ハ、其、伴、者、ヨ、リ、ハ、ヒ、タ、ス、不、ナ、ル  
也、此、ニ、テ、ハ、一、方、石、ス、ク、ミ、ニ、納、リ、テ、モ、是、ル、ヘ、キ、杭、ナ、レ、礼、式、定、リ、テ  
法、ヲ、守、ル、人、ア、ラ、ハ、高、一、万、石、ノ、身、ニ、テ、現、米、三、千、七、百、五、十、石  
ニ、テ、ハ、豊、登、ル、ヘ、シ、然、レ、ハ、高、一、万、石、ニ、テ、現、米、二、百、五、十、石、ア、マ、ス、  
ハ、難、キ、ニ、非、ズ、小、身、ノ、面、ニ、ハ、中、ノ、餘、分、ノ、沙、汰、也、及、ハ、又、杭、ナ、レ、  
此、心、掛、ア、ラ、ハ、其、辨、ニ、テ、夫、程、ノ、餘、リ、ヲ、存、ス、ル、  
石、取、者、現、米、二、十、五、石、百、石、取、ハ、現、米、二、石、五、斗、程、ノ、  
甚、タ、カ、タ、レ、ト、云、ヘ、カ、ラ、ス、叔、此、法、人、作、  
ヲ、以、テ、定、メ、玉、ヘ、ル、ニ、非、ズ



天道ノ自然也凡ソ此事ニ不限聖人ノ法ハ皆天道ニ从ヒ  
タル者也若シ二典ニ考フヘシ夫四時十干月ノ内春夏秋冬  
秋ノ三時ハ生長收ノ功アリテ冬一時ハ生氣根ニ歸マズ不  
未年ハ成長セサルヲ不能ハ四方モ東西南ノ三方ハ明ラカニ  
テ北一方ハクラシ不無ハ三方ノ明ラカニテ夜モ卯  
辰巳午未申酉戌亥ノ九時ハ六シテラキ勤メテ子丑寅  
ノ三時ハ休ス此三時ハ翌日九時ノハ夕ラキラハス  
不能モ皆同事ナリ予嘗軍學好謀ト云分ラ作ル其  
内大者十万人ノ録ヲ五ツニワケテ二万人ハ主人ノ蔵入トシ八  
万人四分ニシテ二万人宛ニテ一通リノ軍役ノ人数ヲ定

メ一俱ニ勤ノ供平生ノ勤ヲナサシメ一但ハ才手稽トシ  
一但ハ非常ノ備トシ常ニ晝夜ノ廻リヲ務メ有事ハ必  
一通ニテモ即時ニ揃ヒ出ル用意ヲシ或ハ勤ル者ノ忘中病  
氣又ハ死スルナトテ稽リノ入用ナル才ハ其内ノ其位ナキ者  
ヲ出スルニ全シ殊ル一但ヲ依息トシテ其一年ハ八馬ヲモ  
減シ家作モ経ノ外ハ者畧シ祝儀往來ノ音物ヲヤメ木綿  
布ホヲ服ニ遊興ヲモ停止勝手ニヨリテ左ノナトハ引込テ  
願ヒアラハ是ヲモユル諸事質素ニシテ其日ハ經營武術  
ホヲ考ラニ務メ智勇ヲ求ルハシムル核皆此方ヲ用ニ是  
皆天地自然則ツテ人作ヲ用ルニ非ラズ該事天道

次第に任スレハ已勞セシテ事治ルヘシ。〇問定免ノ宜  
シカルヘキハ尤ニテモ見ノ仕様アルヘキヲト爲ル申候  
ノ一ハ時ト所トニヨルナレハ一概ニ言カタシサレテツテ大  
クイハハ代官檢見ノ所ニ名主組頭ト百姓ヲ引ツレ立  
合テ下檢ト云フヲヒテ女野ニ合モテ其付キ札ヲ立  
置也其上ヲ代官モ見ノ付又改テ上中下ニ段ノ場  
所ニライテ各坪別春法シテ合モテ定ムルニ其時  
檢見ノ札ト引合セテミルニ一升モ有ル所ハ必ス七八合  
モト札ヲ付テトカク變ラシルサ又モノノ只今並ニアラハル  
トサハ此是民偽ニ習テ恥ヲ忘ル故ナリ是民各々

畢竟上ヨリ常ニ偽リヲ以テ民ヲ御スル故ソレニ習ヒテカク  
ハナルト孔子無信ハ不立ト至ヒテ信ヲ以テ命ヲツナク  
食ニ至玉ヘシサレハ代官タル者先常ニ信ヲ以テ手代ヲモ臣  
位ニ百姓ニ假リニモ偽リヲ以テ對ヒスシテ下モ見テ其合  
出シ恣ニテノ偽ヲ戒メ此モ見村ニ皆ク偽リノ札ヲ立テ置テ  
ト云テ恥ヲ忘ルハ非ラ告知セ當年ヨリ偽リヲラフヘカラス  
上中下トクト見合シテ坪別春法スル寸ハ下野ノ札ヨリ一合  
モ多クハ一村一合認皆アケテ取ヘシ若下檢見ヨリモカ  
クハ一村皆一合ヲ引下ケテ取ヘシ或坪別ノ寸稻ノ穂ヲ盜  
ミナト色々ノ手クヲラスル者有之時ハソレホト皆一

村ハカケテ取ヘシ坪ノ棹或僦ヲ引トキニ徳ニテモ役  
人方ニ各理ナル仕形アラハ百姓世古ヨリ吟味スヘシ随  
分平カニ取シクシテ毛改偽リヲナンニ民ヲ欺クヘカラス  
十分ニ米ヲスリテ一盃ニ定メ取取圍ハ前ハ積リヨリ  
五合モ之スヘシ極メテ前カトニ大小ノ百姓ニ場ノ額  
スヘシ此方ニ劣キタル者有之程ヲ後シ又ハ升不十ト  
ニ手クテカマシキフアラハ其モノ一人ノ手前ヨリ科代上  
テ夫程ノ額ヲカクヘシト云フヲ定メテ此旨モガシモタカ  
ワスハ手代内望ノ私曲モ行ワレシニ此四五ヶ村モナシ  
ユカハ大々多クモ不入手代モサナクテ毛見ノ日数モスル

ナカヘシ民汝真ニ也<sup>成</sup>テ後、下檢見ノミテ代官毛見  
及ハサル程モ成ヘシ也シメ民ノ一ハ彼ヲ愛シ親ムト信  
ヲ教ルノニテテ全体スムクシ治土地代官職ノ人ハ上  
ノ撰ヒナレハ下ヨリ論シカタク代官タル者占手代下  
ヲ撰ミ不申ノ肝要タルトハ誰モ欲シテ誓帝迄ヲ  
取テ使ヘトモ必私曲スル者多シ也撰ヒ格尼ヘンヤ答云  
天性潔白ナル者ナキニ非ストイハ凡万人モ一人也ソレモ取  
テ難カルヘシ然リトテ手代ナクテハ代友取ツトル下  
シ撰ムル程ト念ヲ入テモ一旦ニシテノシクモノテ非ス  
然レハ下地トモアレバ代友ノ心ニナレシキモ

モイツトナク善ト成又善者モイツトナク惡ト成ヘシ然  
レハ手代ノ善事惡事ハ即我心ノ善惡ノアラワレタ  
ル姿ナリトモラ監ニ深ク自及シ耻ニ恐レテ先我カ  
欲ヲ寡フシ才一ニ奢ヲ慎ミ手代ヲ重ミテ彼ホモ  
未レ母清スル況ニ元謀リ也言ヲ好ミテ根絶ル諂言  
者ヲ近付スシハ其風自坐ト改ムルニ代官職ハ其  
役ニヨリテフガシ多ク召仕ト家廣ク住テ大才内前  
ニ人ニモ教ハワルレト元末小身ノ面ニナル 改レテケ  
レハ室主位ノ召アリ及ニテハふお在ふお和手前ヨリ  
謙リテ同輩ノ思ヒヲヤシ折和シテ内外ナク存仁トシ

有各セニカレナク奸邪モ自然ト止マヘシ代官手  
手代ヲ望ミ筆算地方ノイヲ學フハ尚其餘暇ニ子  
供共モカタツケ身ヲ老幼ノ安堵ヲ思フ故ニ精コシテ學  
ヒ仕ヘテモ見ホミ出ル寸ハ夜ノ内ヨリ出テ夜ニ入点カケリ  
ルキ還リテハ夜中ハツ時迄ニ初定ニヤリ又明朝六ツ時ハ  
出日ニ如此ニシテ遠方ノ廻ル外ニ是程骨折奉公ハ  
己ナシ此モ勞ヲ知テ望ミ末ルハ利ヲ目カケタルコト具村  
ニミテ魚鳥ヲ振舞フヲモ堅ク禁祖儀ノミヲアイテ  
民ヨリハ聊ヤノ物ヲモ受シメト云其等令ワルケヤ  
能ク人懐ク考フヘシ是ヲ以テ法ヲ堅クシテ誓帝面判ヲ

取置ナカラ其代官ノ心ニモ内ニテハサシノ禮物ノ受ルト  
云フシラサル人ハナケレト輕キヲハ見又アリヨスル  
ミ也然レハ此時既ニ其誓帝敗レ法度モ崩レタル  
ヲ知ラス夫利ヲ望ミテ来ル者ヲ財利ノ誘引テ利ヲ  
貪ルト云フ行フルヘケヤ其代官トナル分ニテモ誓  
帝ノ表ヲ守ル人計ハアラ子ハ加ソ谷ヲ蒙ル人ニ有之  
ニテシルヘシ然レハ誓帝ト云フ先世用ナリ皆ク知  
テモモサセウミノハミ又フリラスル寸ハ主人マツ誓  
帝ノ背ク共神罰ヤヌカルヘカラス酒肉モサミハ骨  
折程ニ至ムヘシ村入用ニサケス代官タル人見テシテハ

賄賂カマシキ筋ヲ傳ヘシ此意思ヲ能心得テ其世置ハ  
其人ニ在ヘシ也トテ元メ其外ノ手代モ号令シテ云ニ收  
納取箇ノ一ノ常ほシハ容易ニユルスヘキリニラス只  
百姓ヲ哀レシ互ニ心ヲ一致シテ其該ツクニ心ニシ  
テ各シテ定ムヘシ其欺テナカレテ止能純吟味シ少  
地サケノ割クニハコシテ開キ石田ヲ拾ヒ荒地ノ木ニテ  
モ植ヘキ所ハ苗木ヲシタテ糞ノ手ツ      ナトヨリ凡テ  
ノ害ヲ除キ利ヲ起シ田池ヲ修肥シラフクニテモ作り出シ  
タラシ年數ノ上テ四分六分ノ狭リニテモアトフヘシ  
平生心ヲ用テ子ハ孝ニオハサハナル節ヲ能示シ

教へ惜農ヲ戒メテ耕作ニ精ヲ出サシメ及ノ地ニ又  
ニ及物ノ移セシ所ハナキカト法ムルヲ作テ等クヘ  
シ此ニシテ武ニ益んヨリテ其地ニメ物クル者アラハ  
お應ノ一ハ上ハ立テ受ルモ苦シカラズ我モ其民ヲホシ  
礼ヲ云ヘシ又或ハ六十六郡ノ内経堂建立ヲ命ジテ  
ニ妻子ヲ引ツレテ農ヲ惜ル者アラハトクト是レ  
止ンテヤメシムヘシ官吏役人ナリトテ傲ニ民ニ  
ヘカニスカリ武ノ為ニ費ヲハフキ利ヲ興一テ大ニ村方  
ヲ終仕ナシタル者ハ上ニモ上テ其功ヲアラム我モ  
褒祿ニテ恩ニキ方ハスメンアリトシ此命ヲ宥キテ内ニ

賄カシキ物ヲ受テ富ニナセル者ヲハ是富ヲ得ル  
ル由儲ラ吟味シ罪ニヨリテト立テ死罪ニモシ  
ヘシ其次ハ上ニ流シ所ノ官ヲ擯ヒテ錮役人ノ見  
セシメトスヘシト此振ラ一帝ニお徳ノ右姓名ヲ記シテ  
連判セシメ不及血誓是ヲ殿ニ刻テ百姓ノ家ニ張セ毎月  
お合テ演習シハヘシ凡村ノ情農アリテ夫ハ邦ヲ衣服  
モ奇麗ニ托セアリキ居ル者アリ多クハ方ニ役人ナトヘ出  
入テ邦テ其處モ母クテ引モ多シ又作ルノミカリテ服ヒラ  
ミスカセラズ時ハ時宜モフツハカニワコソニテ人ノ字  
ニモイラヌシテ代友不ハカテモヒリヲ受ルニナシハ彼情



若ク是風多ク此日或代有るノ支那ノ有姓年多ク  
ナリトテ八十箇村名主多ク半錠ヲ計シタリトテ  
其名ノ名主ノ誤リケルハ此八十箇村ノ内ニ皆同  
ナラ又者計ニテモナシ外ヲ見合セ当年ノ半錠カレハ  
三十箇ニスレバトテラワサト出サ又者有ト云ヘリ是者  
姓ノ恥ヲ忘レシム忌ハシキ虐政ニ非ズ本也且又此以  
ハヤルニ心付ト云付英日無ノアリテモ一  
日ノ堅キ仰停上ナシト寺ノ建立ノ為トテ致出レハ佛  
法トテハ格別トニヤエルシテ富トイヒテ三笠下同シ  
子ヲナサシムル人モ有此民ノ利心ヲスハルニ此

ニシテ博奕三笠ヲ制シタリ此ヤムヘキ控ナシコハ  
ヨク根本ニ心ヲ付ヘシ○夫土地ヲ治ルハ其所ノ人情  
ノ好惡ヲ察スルヲ第一也次ニ土地ノ肥瘠山林河海ノ  
言ノ差ズ所ノ利ヲ考フヘシイカホト確成トニテ  
モ眾人ノ好ムトノ不成ハ那レ仍程成ヤスクシノカモ  
民トモシテ為シ安シキヲミテモ其不好トハナレルハナキモ  
ノ心サレト其好ム所アシキ筋ナラハ要極ヲ務メテヨ  
キ向ノ向ハシムルト肝要ニ無ルニ此好号令法度ノ及  
フ所ニ非ス其好ムノ心一タヒ向フ所ハ常セスシテ其功  
速カシ安シ民ヲ親ム人ニシテ始テコレヲ行フヘシ也

何トナレハお親ムラ姫ヲ有ハ天下ニ無クナクマニ本  
ツキテ其政ヲ施ス民ヲ親ム心ナクシテ親民ノ業セシ  
トスル世術ノ術ナリ行ハルヘカラス親民ノ心實ニ有  
之ナハ必ス親民ノ有ク世心ナキヲ徒法ト云思テ行  
ワレヌコト減ハヌ世心アリテモ世心ナキハ徒善トテ政  
施サルコトニアラス故ニ先王有ク忍人之心而斯有ク忍  
人之政トイヘリ

盜賊并災異ノ事

世ニ盜賊多ク百姓難儀スルノミナラス大名旗本并家  
中小身ノモノマテ其憂ヲ免レヌ世災異アルヘシヤ

曰コレ女本ヲ塞カスニテ末ニ於テ制セントスルハ腐臭ノ物  
ヲ不去シテ生ル虫蠅ヲ取捨ントスルニ同シ去ル野ハ  
一二ニ不<sub>レ</sub>過<sub>レ</sub>テ生スル虫ハ千百ナルヘケレハ去リ尽ス  
不<sub>レ</sub>能<sub>レ</sub>内ニ必<sub>レ</sub>手餘リテ後ハ大ナル乱ニ及フヘシ此女本  
ハ何ヲカ云曰其本トハ在上人ノ欲心ヲ云故ニ孔子季  
康子嘗<sub>テ</sub>ラ屋ニセシ問ケルニ答ヘ玉ヒ子カ不欲<sub>レ</sub>以<sub>テ</sub>虫蠅之  
不<sub>レ</sub>盜トノ玉ヘル也及<sub>テ</sub>シラ又者ノ心ニハ迂濶ナル答ヤ十  
世上盜多キナリ手前ノ欲ヲ去ト<sub>レ</sub>世時ノ爲ニアフ  
ハケンヤナト言ヘシ是前ノ虫ノ生ルニテ考ヘシハ迂  
濶ノ論ニ非ルコトミルヘキコト夫在上人ハ生レテナラフ

朱書

上藩ナレハ財利ノ鄙シキ心ハヲワスマレキ也  
下、在者ハ金伴財利ヲトシテ父母妻子ヲモ  
育ハ下ナレハ其在上人タトル心ナシキ利心ナク下  
下ニテハ利ヲ貪リお争フ程ノハアルヘキトシ夫タニ  
有道ノ言ヲ申テハ耻入テ感スル者也然ルニ在上人利欲  
ノ心ウモヲワセハ在下者ノ盗ヲスルハ必定也且ノ人利欲  
ノ心アレハ聚斂ノ臣出来テ自ラノ功ヲ庇サントテ上ニハシ  
ロシメサ又各理ナル利欲ノ政出来ル者ニ此源ヲ塞テ  
此根ヲ絶玉ハ、打捨置タリトイフトナノヤムヘキ也  
サレト一日、テモ塔滅アレハ良民ノ難儀ナレハ其節ノ

手当ハアルヘキトナル故節ソノ趣ヲ論スル也必此  
処置ニテ皆クヤムトテモコレヲタノミテ其本ヲ忘  
ル、トナルヘシ、元禄年中ニ世山侯系ニ尹タル  
或中門迄ノ智ノ内ニある軒ノ穢多村アリ位  
居コモバリノ核ニテ食ニヒトシ其河ノホトリナルニ  
ニ新家ヲ分テ、良民ヲ置キハ甚タ利得アルトテコレヲ  
ス、ムル者アリ仍ラコレニ替地ヲ玉ワリ其方ヘ引移ラ  
シメントテ料トシテ百金ヲ玉ワルメントアリ穢多共  
千金ヲ玉ワラハ引移リ侍ラント云英<sup>家</sup>京司ホ怒リテ  
百二百ニテモ事足りヌヘキヲ此寸ヲ見込ラカク欲

深キヲ云ハニクキ奴魚ニトテ人ヲ頼ミテ京兆君  
イワシメ京尹ヨリ吃ト命シ玉ワレト云漁公コレニ答テ曰  
此事只内ニテ家内中袋友モ述ハヤセテ得心セシム  
ラレ然ルヘシ此方ヨリ命シ難シ其故ハ今其村ノ所替命  
シ玉フハ止ニ利得アル故トノコト也凡ソ人ノ上位ニマシ  
マス由中程ニテ利得ノ為メ久シク位ナレタル者ノ所替  
ヲ命シ玉フナレハ人類ニアラ又程ノ下品ノ穢多世ノ利  
得ヲ願フハ固ヨリソノ所也只イツニテモ記司中ヨリ  
彼ホ得心サセラルヘシト語り玉セケレハ言ヲ傳ヘタル人  
辱メシテヨリケルハ是ニテ源公ノ志ノ一端ヲミルヘシ

夫盜賊ニモ大小ノ別ナ有ハ小盜ハ百姓困窮ヨリ起レトモ  
ニ凶年ニ多クシテ老年ニハヤムヘシ大盜ハサナノテモ其  
群山中海上トモ有シ民困究スレハ臣勅ニ察シテ生ニ成  
リテ良民ノ内ヲモ其仲間ハ入者多ク今皆ヤメント  
ナラハ前途アル如ク君心一念ノ利欲ヲ克己シ政  
府役人ノ利心ヲ戒メ民ヲ安ミテ渡世ノ善根ニシ  
利心起ラヌ手当ヲナシテ其本ヲ固クシ大盜ノ渠魁ヲ  
ツリ出シテコレヲ執ハ渠魁ヲ執フ術也人ナクテハ事終ラナ  
ズニ是モ其志アル人ヲ捕ハルニ盜賊ノ器量ヲハカリ假ニ偽  
タルヨリテ盜モコレニ服スト其盜賊ノ器量ヲハカリ假ニ偽  
ヲ以イロクニスカシ問フ有ハカラス尤イタメ苦シメ

朱書

メテ貴向フハカラス只折々召出して其イフ所ヲタン  
シテ力量ノ有各ヲ考ヘシルヘシ盗トテモ威信ナキ者  
ハ無盗不服シテ女事行ワレ又者ナリ女匠ト成テ  
大務ノ盗賊ヲ死地ヘ引連リテ盗ヲスル程ノ者中ニ  
辨ノ士トノ手ニアフモノニ非サルヘシ然レハ左儀ノ器量アル者ヲ  
仍日ヲカサテトクト説得シ自ラ女福福ヲエラハシメ能ク  
自及セシメ盗ノ天道ニ背キテ人タル者ノスレシ事ハ  
汝自ラ知ル所ナリ去ホトニ汝ホトノ武勇ニテ小兒女  
子モ見付ラル、ヲ恐レテ夜中又ハモ人ノ心ヲ考ヘ子  
スミノカクル、如ク逐マハルヲ耻シカラスヤ一旦欲心ニ

フヤマラレテカク浅マシキワサヲシタリ世而後改テ  
善、但シ良民トナリテ人ヲ仲ケルヘ入り只々一命ヲ  
即ケ玉ハレル報恩何トソシテ始メ同類ニテ有ツ  
ル盗人サニ學、説得セ各改メテ善ニ歸シ人ヲ返リ  
テ刑ヲ免レシムヘシ女教、從ヒテ改メテ善ニ歸シ  
タルモノアラハ汝澄人トナツテ召連出ラ夫カ為メニ  
説クヨク然ラハ女者ノ罪ヲユルシ良民ニマシヘ善ニ  
歸スルノ功ヲ稱シテ新田地數ニテモ其恩ノ物所  
ヲ玉ワル者人トスルカ品ニヨリ盗賊吟味ノ役人ト  
モシテ又重子テ出ル盗賊ヲ改メシムヘシ若又終

ニ改ムヘカラスル盜ハ汝必スウクヘカラスヤ立テ  
成敗スヘシ是天道ヘノ法也公ニテ汝カ罪ノアカサヒ  
ナリサモナリカ多キ者ハ捨置テ重子テトラヘタラシテ  
処シテ少シモユルスヘカラスタトモ改ムヘシト云トモ君父  
兄長ヲ殺セシ莫ハ其旨ヲ中ウカセラ罪死<sup>ノ</sup>盾<sup>ル</sup>ヘ  
カラス其外ノ<sup>ノ</sup>ハ元未<sup>ニ</sup>終<sup>ニ</sup>賊セシ者ナレハ旧惡<sup>ノ</sup>其<sup>ノ</sup>所<sup>ニ</sup>リ  
必責<sup>ヘ</sup>カラス也<sup>リ</sup>タル人自及<sup>シ</sup>テ元未<sup>ニ</sup>教<sup>ヲ</sup>モ不<sup>レ</sup>施<sup>シ</sup>テ  
人ヲケ<sup>テ</sup>概<sup>ニ</sup>コソコナヒタルヲ悔<sup>テ</sup>寛恕<sup>ヲ</sup>以<sup>テ</sup>是<sup>ヲ</sup>処<sup>シ</sup>唯  
重子<sup>ヲ</sup>盜<sup>ノ</sup>出来<sup>又</sup>手<sup>当</sup>ヲナスヘシ伊<sup>持</sup>三<sup>子</sup>ハ盜<sup>十</sup>  
リシカ改<sup>メ</sup>テ源<sup>義</sup>経<sup>ノ</sup>功臣<sup>ト</sup>成<sup>野</sup>多<sup>山</sup>久<sup>留</sup>島<sup>本</sup>ト

海賊タリシト云傳レト其子孫今皆國家ノ干城トナレハ汝  
モ改<sup>メ</sup>テ子孫永ク國家ノ干城トナルヘシト心得  
セシメ<sup>テ</sup>弥<sup>得</sup>心<sup>シ</sup>テ其<sup>ノ</sup>功<sup>ヲ</sup>フハ區<sup>分</sup>・知<sup>リ</sup>ヲ玉<sup>リ</sup>  
テ盜賊<sup>ノ</sup>吟<sup>味</sup>ノ役<sup>人</sup>ノ長<sup>ト</sup>シ<sup>テ</sup>他<sup>ニ</sup>歸<sup>セ</sup>シ功<sup>ヲ</sup>褒<sup>玉</sup>  
ハルヘシ今<sup>マ</sup>テ盜<sup>ミ</sup>タル<sup>モ</sup>ノ<sup>ヲ</sup>運<sup>漕</sup>取<sup>次</sup>タル<sup>ホ</sup>ノ惡  
覺<sup>ト</sup>テ<sup>モ</sup>是<sup>ヲ</sup>ユル<sup>シ</sup>テ<sup>向</sup>ヘ<sup>カ</sup>ラ<sup>ズ</sup>先<sup>年</sup>七<sup>條</sup>ニ<sup>テ</sup>  
大禁<sup>ヲ</sup>犯<sup>シ</sup>テ<sup>被</sup>荷<sup>ト</sup>云<sup>モ</sup>ノ<sup>ヲ</sup>買<sup>ト</sup>ル<sup>ヲ</sup>業<sup>ト</sup>シ<sup>ケ</sup>ル  
棟<sup>梁</sup>・先<sup>生</sup>金<sup>在</sup>門<sup>ト</sup>云<sup>ヘ</sup>ル<sup>者</sup>ヲ<sup>リ</sup>捕<sup>ヘ</sup>得<sup>タル</sup>時<sup>部</sup>  
テ其<sup>ノ</sup>罪<sup>ヲ</sup>ユル<sup>レ</sup>玉<sup>ワ</sup>リ<sup>テ</sup>扶<sup>持</sup>未<sup>下</sup>サレ<sup>タル</sup>ヨ<sup>リ</sup>其<sup>ノ</sup>美<sup>ヤ</sup>  
ミタル例<sup>迄</sup>比<sup>ノ</sup>テ<sup>是</sup>盜<sup>賊</sup>ヲ<sup>以</sup>盜<sup>ラ</sup>ヤ<sup>メ</sup>鉄<sup>ヲ</sup>点<sup>シ</sup>



テ金トスルノ積也然レテ天下ノ予其人ヲ入レカ  
エルニ非ス取ラシツテ惡心ヲイレ殆モ善心トナサレ  
ルノミシ惡人変シテ善人トナレハ一人ヲ不刑シ  
テ盜賊ヤムヘシ然リトイヘ凡其德器アル人ナラテハ  
及フヘキニ非ス故ニ其人ヲ撰フテ大事也功利覇術  
ノ心アル者ナト云ハ必ス左様ナク又ルキヲニテテテ  
フニ非スヤト云ケルノ彼ニナルヘキ人ヲ撰フニ剛強炭  
猛ナル人ヲ乃チ下大ナルタカイニ下ニ属取テノ同ム  
ナトハ其程左様成モノナラテハ時ニ依リテ將アリヘカラ  
スザモ上タテテ物ノ曲直ヲ正ス人ハ中ニ左様ノフニ

テハ其害多ナルヘシ凡ソ強猛ナル人ハ必ス気短クテ  
人ノ各惡曲直ヲトクト吹届クルヲナリ詮モナキ同  
ノ各礼儀外ナトヲオト答メキセシク叱リ酷レ  
ク責テ痛メノ、シル本其立人<sup>下</sup>役人皆其風ヲ用ヒテ  
威勢ヲ振ヒテ只キヒシクスラ由シトス彼嵐盜ノ手  
ヨウキモノ凡ハ恐レテカ、ミ廻ルヘシ夫サハ度ヲ失フ  
ニヨリテ部テ当分ノカレコ突ナキコヲ云モノ也彼  
頭ヲモスル盜賊ナトハ左様ノフニテハ中ニ恐レ、  
ニ非ラストセ命ヲトラルハトテモ同様ヲサレ云モノ非  
ス奏<sup>左</sup>テ白状シラドシテ恐レテウロタユ<sup>下</sup>テ

イラトラル、ヨリ耻ニ思フ情ナリ夫程ノ悪人ニテモ  
良知ハ古リトモ効ルヲナケレハ得心シテ不義ヲ取ル  
道ヲ守テハ屈服スルヲ必スミヤカ也所謂悪ニ強キ  
者ノ美ニ強キ也甚ヨクキ業終トテモ良知ハ古リトモ同  
シトテハツシモ滅ヲ以テイタセハ後ルオハ同シク是レ  
ハイラサル者及兵ヲ設ケテイタメトスルハ是レ判ノ世流  
ニ若他伊國親ヲ殺セシモノアリテ獄ニトラハレタルニ那波  
木庵ト云ル官儒有リ業ヲ惺窩故欽夫、受此儒邪  
者トフテ云此極罪ノモノニ試ニニ各経各ヲ説クセ  
見侍ラント願ヒケレハ邪君ニルシアリテ獄ニ律テ孝

徑ヲ講スルヲ三日夜ケレハ罪人涙ヲ流シ唯一日モ  
早ク玉極ノ刑ニ処シテ其罪ヲ懲メ玉ヘト願ヒテ刑  
ニ就ラタノシミケルトナリ又是レ比小濱明府云クモ  
行タルす新助ト云テ儒者ノ志讀ナトテ教ヲ受ケテ  
此者人ヲ殺シテ其財ヲ棄ヒ僧ト成テ三井寺ノヘン  
ニ隠レテケルヲ捕ヘラレ来リケルヲ儒者トナシ  
モ人ニ教ヲ受ケ者ナレハ人殊更ニ悪シ深カリケル程ニ三  
条坊ノ人ナリニテ三日サラシテ梟首セラル、ニ極リ又儒サ  
ラサレケル次ノ報サ同殺アリトテ云出ケリ也シテ  
罪極ニルトイヘ氏左様ノ一乙ハ又日ヲ延テ少廟クル

政府ノあるナレハ打捨カタクテ其方ヲ秘吏ヨリ  
小濱明府ノ處ニ依リ明府ニ自ら防シ玉ヒ難ク亦尹  
佐信守牧野君ニ口サレケレハ予既ニ定マリタル上ニ  
毎朝ノコナレト打モ捨カタシハソコニテモヤクモ  
ハカウヒ玉ヘト仰ケレハモリ又チリ所ニ彼罪人ヲ召出  
シ明府問玉ヒケルハ汝既ニ刑セルニ當リテ儼ニ同  
美ライワント云フ當時ノ命ヲ延セトテ血ニ迷ヒタルカト  
仰ケレハ罪人云命惜カリシカ也サマヨイケレト今天罪  
ニテカリ捕ワレ侍レハ道ルヘキニ非ラズ暫時ノ命延シ  
トテ血迷フフニモアラス也近ハ口執ヲモ隠シ侍リケレ外

ニ往テノ所ニササレ法人ニ耻ニセ侍ル上ハ同美ヲツハ  
ムハキヤウモテクハカクテ出ケルトト仰レハ口執トハ  
誰ナルソトト問玉ヘハ其人ナリトト儼ニ云サレテ所ヲ其  
所ノ者ニ召出サシメテ乃チ玉フニ其者誤リナキノ  
ナラス一町ノ者モナレハ左様ノ悪党ニハ魚ニ若クアス  
明府罪人ニ向テ汝血ニ迷フス諸人ニ耻ニセツト云汝不  
至ニ死フト云ヒ聖去ヲモ人ニ教ヘシテモアルナレハ  
覺ヘタルヘシ鳥ニ將死其鳴哀人之將死其言善  
トアリ口執人ナリ也今死セントスル柳ナレハ其イフ  
フ若カレハキリ也然レニ々口執トテ汝モナキフヲ云

ノミナラスカクサラサレテ耻見ズルト云フ大ナル恥也  
ヒシ汝の羞<sup>有</sup>マシキ惡ヲナシタルハ誠ニ大ナル耻ナリ  
あり汝の何ノ色振アリテサラシテ快カラシ汝自ラ  
省ミヨ汝セサラスハ汝ニニクミアルニ恥ス該人ノ又テ  
戒メトセンタメナシハ汝存心ヨリイハ人ノミセシメト  
成リテコレニヨリテ天下ノ内一人モ惡ヲヤムル者ア  
ラハ汝カ身ニ取テハセメテ此上ノ天道へノ亦身公ナラ  
スヤサラハニ望ミテサラサルヘキナラスヤト委ク教  
ヘ玉ヘハ此罪人涙ヲ流シトカクモトノ如クサラサ  
セツヨキ刑ニ行ワセ玉エテ罪業ホロボサセ玉ワレ

彼同奏トトセシハ實ニ同類ニアラス以此何レ  
ノ志趣アリケルホトニ此及此志趣ヲ悉クシテ  
惡心由來タル故トタルコトヲ言テ罪アル者ニアラス  
其志趣トヲモテハタルモ略我惡ニテ彼カ惡ニアラス  
ト一々白状レケレハ明府左右ノ官席ヲ顧ミテ略  
此言ヲヨク少テ學問ノ難有テシ知レハカレハ此惡  
事ヲスル者ナレトサレモ聖考ヲ覺タル冥加ニヨリテ  
今善人ト成テ命ヲ玉ヘ傳ル彼レ惡ヲ改メタルハ今日  
則善人ニ能ハシテ痛ハリテ刑ツクヘシトテ昨日  
又モトノ所ヘサラサレケレハ彼者其場ニ在ラザリ

ミル群衆ニ向ヒテ我ヲミテ惡心ノ戒メトシ玉ヘト已カ  
罪ヲクリ返シケルニ夫位ヲ以テ治レハ只今死ニツク  
モノモ心服ス況ヤ性命アリテ世ニ居ル者惡心ヲヒルカ  
ハシ善人ニナラハ盜賊ノヤムコト難支フアラン在昔  
唐太宗初即位羣臣論止盜或清重去以禁之太宗  
哂曰民之所以為盜者由賦役繁今去奢省費輕徭薄  
賦近用廉吏使民衣食有餘則自盜安用法邪自是  
數年之後海内升平路不拾遺外戶不閉商旅野宿又云  
孔子季康子答へ玉ル孟子ノ民無恒産則放辟邪  
侈無不為ト云ル諺ニ万世ノ免鑑ニシテ太宗コレヲ用テ

升平ヲナサレシ跡ヲ戒ニ明ラケタルヲナラスヤ

祥瑞注 災異之事

祥瑞トハ日出度瑞ホニテ麟鳳龜龍ノ灵物至リ甘露降  
リ灵芝生ル故善政ノ感応ニテ天ノ其君ヲ褒メ玉フヤ政  
ナリ災異トハ災ハ天災ヲ云山崩レ河竭キ水火蝗虫ノルイ  
是ナリ害ハ人害ヲ云盜賊ノ妄行孩童ノ人ヲナヤニス該  
是皆惡政ノ感応ニテ天ノ此君ヲ哀ミ玉ヒテ示シ玉ヘ  
ル教戒ナリ善人ハ勅ノ陟セテ其功ヲアラハシ褒玉  
フハ君ノ臣ヲ召使ワセ玉フ礼儀ナリ惡人ヲ懲シ黜ケ  
玉フハ君ノ臣ヲ憐シミ玉フテ戒メ玉フノ政事ナリ臣々

ルモノ此戒ヲ省ミ恐レテ敬ミ改メハ君何ソコレヲニクミ玉  
ワン差又其政事ヲ敗リテ敬ムコトナク却テ怨ミ怒ル  
アラハ君必スアツルニ刑ヲ以テシ玉ヒテ家ヲ失ヒ國ヲ亡ホ  
スコト目前ノコト人君ノ天下ニ於ルモ同シ夫ノ戒ヲ突矣  
ニ省ミ玉ヒテ徳ツシシ改メ玉リテ天悦ヒ玉ヒテ宝録長久ナ  
ルハレ其災害ノ戒ヲモ恐レ悦ハ又君ハ必ス天ノ四罰ヲ又カ  
レスシテ天下ヲ失ヒ玉ヘルン唐日本トモニ艾タメレシ  
國ヨリスクナカラス或ハ臣ノ功アルヲ褒シテ官ヲスシ  
祿ヲ加ヘ玉フヲ悦コバザル者ナシサレハ人モ敬ヒ事モ  
滞ラヌヨリイツイシカツシシ功ヲ忘レ功ニホコリテ我

シラス奢リヌル人ハ君終ニ怒リ玉ヒテ却テ又吾ノ祿位  
ヲモ合セテウシナヘル人ハサカラス人君ノ天ノ祥瑞ア  
ルヲ悦ヒ人モ褒ヒケナレハ我シラス初ノ謹ミヲ忘レ玉ヒテ  
果ハ却テ國ヲモ失ヒ玉フ類ヒ唐ノ明皇本朝ノ後醍  
醐帝ナト是又明證ナリ夫水火雷風地震勅ノ変天  
下ミアラユル者恐レサルコトナクシテ人君ノコトサラニ  
身トトリテ修省マシマスヘキ中予ニ夫天災ノ至ル  
徒ニ来ルニ非ス人必スコレヲ招ク君上ノ仁意ヲ密シ  
知テコレヲ下ニ及吏職其人ヲ得ヌ政事其害ヲ失  
ヒテ人ヲ愛スルニ己カ姑息ヒイキヲ以テシ人ヲ刑スルニ



ハ己カ怒リ悪ミヲ以テシ利欲其るト扱ム是ヲ以テ上下  
否塞シ君沃ハ下ニクダラス民隠ハ上ハウニス其辭甚ノ  
氣升リテ天ノ怒リヲ動カス是水火災異ノヨツテ至ル  
所シ火ハ天ノ怒リシ水ハ天ノ憂シ万民怒レハ君心  
ノ怒ヲ動シ万民憂シハ君心ノ憂ヒヲ催ス君民トモニ怒  
ラハ天豈怒リナカラシヤ君民トモニ憂ハハ天豈憂ナカラ  
シヤ天ノ怒リハ大火ト成テ火消ノモノ、予モ及フヘカラス  
天ノ憂ハ大水トナリテ堤ノ上ニテハトムヘカラス夫人君ニシ  
テ天ノ憂ト怒トヲ恐レツ、シミ玉ハスハ臣下ニ誰カ君ノ  
怒リト憂トヲ恐レツ、シマンヤ臣タル者君ノ怒リト憂ト

ヲ恐レ敬シムトナキニ至ラハ滅亡將ト至ラントス故ニ  
古ヘ堯舜ノナヨリ天文ノ役人ヲ立玉フハ天ヲ恐レ敬シミ  
玉ヘル餘リニ於又此及ヲ命シテ天心ノ機燭ヲ究ヒ玉ヘル  
此此天心ノ機燭ヲ究ヒテ天ノ陰陽ヲ變理スルハ火  
大ノ賊分也是武人俗吏腐儒曲學ノ流ノシレル所ニ非ラ  
スサレハ火非常ノ變ハ天ノ此君ヲ愛シテ戒メ玉フ  
ナレハ人君コ、ニ於テ自ラ其本心ノ天ハセ玉ヒ共ニ徳クノ仁政  
ヲ施シ玉リ万民ノ怒リヤミテ然後君ノ怒リモヤミナ  
ハ天ノ怒リモヤミテ火災ヲコラス万民ノ憂ヤミテ然後君  
ノ憂モヤミナハ天ノ憂モヤミテ洪水ヲコラス奸邪ノ吏

去テ盜賊消スヘシ不然ハ末々ノ憂尽ルヲナカルヘシソ  
レ大盜鼠盜人殺シ追剥放火ハ人害也大盜ハモトヨリ  
其徒諸國ノ山中ナトニ有テ困不困ニヨラストイ(世民心ノ  
躁動ニヨリテ場ヲ得テ徘徊多キヲアリ場ヲ得レハ  
年々多ク成テモテアツカフヘシ是ヲ拒クテ前ニ逃タリ小盜全  
ク困窮ニヨレリ夫レ民窮スレハ良民モ盜トナリ饒ナレハ賊モ  
良民ニヨスル人殺シハ盜ニモアリ姦姦モ有色欲モ有狡モ  
有共ニ人心ノ浮動凡俗ノ衰ヘニヨリテ起ル火付ハ盜ニ  
才ニシテ或ハ姦姦又色欲モ有追剥ハ金ノ盜ノ為ニシテ  
困窮才ニシ捲テコレヲ云ハ困窮ト女色トニヨリテ姦

也女色ハ又困窮ノ媒トナル凡人ヲ鼓舞シテ浮動セシ  
メ財ヲヤフリ家ヲ滅スノ基ヲナスハ游女ノ多キニヨ  
レリ游女町ハ悪党ノ巢穴狡者ノ淵藪也富人ヲ負人  
ニシ善人ヲ悪人ニ化シ人ノ子ヲ損シ市井ノ手段ノ主人ノ  
物ヲ掠ルル根本ニシ然レハ有来レルヲモヤメタキヲト急  
ニコレヲササハ飢寒ノモノ出来又ヘキモ不便ナレハ不得止  
シテ漸ク以テ処置アルヘキニ下カスヘシ後世ハ処ノ  
慈昌トテ多クタル人具ヲユルシテ町ニマテモ姦シナラシ  
ムルハ何ソヤ江戸ニ於テ音羽町トイヘル淫房ヲ近キ比  
停止セサセ玉ヒヌレハ上々ノ淫心ハ移クカクシキ

ナリタトヒガミ益アル一或セ遊女屋ハ禽獸ヨリモオト  
ル者ナルニ世者ノ為人ノ身上ヲ破滅スル坊所ヲ所ニ設  
ケシ一誠ニ禽ヲ率ヒテ人ヲ食シムルノ甚シキナラスヤ近キ  
コト諸士ノ罪ヲ犯シテ家ヲ滅セシ類人ト云敷ヲ知ヌ眼前  
ニ此ノ害アルニ心付人モ少キハ嘆クヘキノ甚キナラスヤ嗚呼ソレ  
人君政事ノ当否ハ天ヲ降ス所ノ災祥ニヨラスニテ何ニヨリテコレヲ監  
ニヤモありテキ程ニ元ノモ及ミ皆知ハ天災是レヲ惡ニテ非<sup>カ</sup>ク災ヲ降シ  
玉フ又当<sup>ル</sup>世心ニシルニナキ<sup>テ</sup>モ道ニ當レル<sup>ハ</sup>ハ天災<sup>ハ</sup>好シ<sup>シ</sup>信ヒテ<sup>テ</sup>為<sup>ル</sup>ニ祥  
ヲ降シ玉フ人言ノ是非ヲ用ヒテ定ルハ皆自然ノタメニアラス万世此カ子ニ  
ハツル<sup>ハ</sup>ナシ<sup>シ</sup>唐日本世々歴史ニ考ヘテ<sup>テ</sup>其証ヲ取ヘシ

宝曆四丁丑年十月二十二日於武州香野之畢

### 京都救餓之大意

三十年未<sup>レ</sup>作<sup>レ</sup>静謐ニテ豊年打<sup>レ</sup>後吏民トモニ餓死ノ<sup>コト</sup>ヲ忘レ  
テソノソナヘナシタトヒ未<sup>レ</sup>然<sup>ル</sup>ニフセク心アル人アリ世  
世間ノ善美ト<sup>モ</sup>国用ノ費公役ノツトメニコトタラサレ  
明日飢民アル處モ其支度スル<sup>コト</sup>不<sup>レ</sup>識<sup>ル</sup>天運ヲモツテミ  
ルニ天下<sup>ニ</sup>一<sup>ニ</sup>変<sup>シ</sup>テ上下トモニ大方ヒト、ホリア  
ラタマリ又レハ三十年一世ノ變ニアタレリト見ヘタ  
リ近年阳气サカンニシテ地カヨウヤクツキ又何レ  
近キウキニ飢饉アルマシキモノトモミヘス若一旦  
コレアレハ国君ハ三年ノタクワヘモナ<sup>ク</sup>ホトノ

方多ク

公儀トテモ打候キタル中物入ニテ国々ノ竹餘米  
多クアリ候モ無之次第ナレハ大分ノ人民ヲ飢  
餓セシメテ目ノアタリ歿死ヲミントコトイタマシキ  
コトナラスヤ今ヨリ其心付ニテ社倉ナトヲナ  
シテ其備アラハ從乃ニアフコトモアランサレト夫ハ  
私領ノ令コソ心任セコナルヘケレトモ京大阪江  
戸ナト町々ノ者ハ此法施カタカラシムルハ  
農民ハ社倉ヲナシ町人ハ時ニタタリテ救フ  
法アルヘシ社倉モ古代ニナツミテ本素ラシテ

スバ行ワレサルノミナラス國々ノ害アルヘシ  
レテ指アタリテ財宝多ク入りテ難儀ナル  
ヘシ上ニ少ノツイヘナク下ニモスコシノイ  
タミナクシテ一年ニ一万石ノ所ニテ百石ツク  
社倉米出来ル法アリ志アル人ノ為メニ語ルヘシ  
飢民ヲ救フ方三十餘年吾京師大ニ飢テ死人千マ  
タニミテリ仍テ小野並東河原ニラヒタシク小屋ヲ  
カケ粥ヲ煮テ賣ヒ玉ヘリ仁心仁聞アリト云  
ヘレシカレ氏目ノマヘノ了管ヒテ深ク考ヘ玉フ  
ニ暇ナカリシニヤ却テ其ミテ費ルノミナラス死

人ニ多く多クシテ一人ノ救ニハナラザリシナリ  
女子佃ヲ段々下ニノヘ侍ルヘシ

一 小屋ヲ大ニカクルニハ先ツ二三日四五日ニハ出来セス  
其間餓死ノモノマタス

一 小屋ノ物入ヲ米ニシテ救ハハ大場タスカルヘシ

一 小屋均京ノ中ニテナラサレハ必小野田東河原迄ナリ  
飢民ソレマテ足ヲハコフソノ中行タラハ、モノ不  
数タトセワツカニカユラトモ飢民遂路ノ往來ニ  
ハ腹ウヘテ不得モ口益是甚シテ費タルナリ  
一 京中一ニヶ所ノ小屋ニテ京中ノモノヲアツムルニハ影

シキ詰合故無カノ飢民ハタユルコト不能シテ死ニ  
至ルモノアリ

一 大場ノイナレハ役人モ多カラ子ハナラスシテ役人ニ

巧次

即乞食ノ

ト云モノヲサスレハ此飢民ニハ尙々税ノ者可憐

モ唯計ニ乞食ニ支那サスルモノハ無礼ノ至リナリ其中

ニモアヘリウエ又カアルモノハ

并小カナクヨロツクモ

ノ、食ヲ奪ヒトル騷動アリソレヲ制スルトテ棒ヲ

以テウキタラス依之痛モノ数多却テ不仁ノコト

トナル是及見タルトシ

一 大場ノ食ナレハ時刻ヲキワメサレハナラヌシテ大

方四ツ時ニ小屋ノ内へ入ル、未明ヨリ来リテ寒気  
夜氣ニアタリタルモノ四ツ時ニテ待テ飢死スルモ  
ノアリ

一 大猪ニテ吟味ナラサレハ有カモノハ二度モ受早ク受  
ルニ無カノ飢人ハ押合コロヒテオツク交テ一度モ全  
クハ不食タトヒ今日ウケテ<sup>元</sup>明日ウヘ又ヤトマテ  
归ル<sup>レ</sup>不能シテ野ニフシテ寒氣ニテタルモノカツヲ  
シラス

一 野陳ニテ小屋ヲカクレハ兩風雪霜ノ時ハ<sup>△</sup>居ナセ  
トモ却テイタミ死ヌ

一 惣シテ食ヲ賜トアレハ手前ニテ少ツ、モモフクルモ  
ノモソレラヤンテモ加<sup>レ</sup>故ニ各用ノ所ニ費ユ鍋釜桶  
等大カノ物入多クツイユ

一 右ノ外吟味スレハ大分ノ費ドモアリ、<sup>△</sup>出ハコノ施行ノ害  
ハ多ケレ<sup>レ</sup>利益ハミヘス

一 右ノ害トツトナシテ飢民スクナク天命ハシラス一人  
モコロサス右ノ米千石ノ処ニハ五百石ヲモ不用シテ役  
人モイラス救フ良法アリ

一 尚小屋ヲモカケス釜鍋ノ姿モ不用役人モイラス飢民ヲ  
歩行サセシテ<sup>△</sup>出費フ<sup>レ</sup>ハ其町ニノ者共ニワタスカラ



夫ニテハ町人難儀スヘシ又其乃ニ又スミトル格ナルヲ  
モ出来町人役人ナトノ私モ出来又ヘシ然レハ多クシテ  
救フヘシヤサレハソノ良法アリサレトモ志ナキ人ニ啓レ  
ハ一座ノハナシニ成リテ必ラス其ヲコナワレサルモノ  
ナリ外ニ程ノ印片モ出来ヤカニシク成テ却テ益ナ  
シ故ニ其人ナクテハ泥ルマシサレバ其法ヲシルシ置ル  
ルマ、ソレヲ秘シテ自分ノ了簡ニシテナシ玉ワシ御心ノ上  
ニテ御考ヘノタノ一覽アルヘシ

一キ、シユキテカタハシウエタラル、オニハマツオ一ニ系ナ  
ラハ上下東西ノ乞食小屋并ニ穢多村島魚ハフレヲナシテ

乞食村ニテ乞食頭ノモノ其村中ノ餓ニ及フモノヲ一人モ  
外へ出スヘカラス其中ニテ一日ニ一合カ一合半ノカユヲ煮  
テ煮フヘシ一人ニテバ其村ヨリ飢人ヲ出シテ町中ニテ死  
セシムハソノ頭ハ追放タルヘシ夫乞食頭ノモノ其次ナル  
モノモ帯ニヲヒタ、シシ金銀ヲタクワヘ居ルトシ頭ヨリ  
ソノ次ナルモノヘワリ付テ相応ニ米一石カ或ハ五斗ツ、  
出タサセテ毎日ソノ女房ナトニ煮サセテ及死類ノモノヲ  
ヤシナワシムヘシ穢多村同前タルヘシ島魚ノ者ハモシ  
ツワアケヤナト、云テ大分富タル者多シ其富タルモノト  
モノ中ヨリソノウチノ飢死ニ及フヘキ者、カユヲ煮テシ

ワセ一人ニテモ外へ出ハカラス若外ニテ島魚ノ者トテウ  
へ死スル者アフハ尤追放タルヘシ品ニヨリ死罪ナルヘシ  
乞食モ常々市中へ行テ定メタル方アリテモライアリク  
モノハソノ通サナキモノハ門ニ番ヲスヘシ一人モ出スヘカ  
ラス是ニテ大分飢死ノ人途中往来ノ害トナシモノナリ  
竄盗ノルイモヤムモノハ乞食ノ手ニ入タル金銀十ト二  
度外へ出ルコトナケレハ加税ノコトニテ同類ヲ害ワスルモ  
ソノモノ共ノ為ニモ冥加ノ事ナリ日頃市中ニテ甚ワル  
、報恩ハ加税ノ寸盜賊ノ乱行ヲトメ見苦シキモノヲ  
道ニタラシメヌコトヲモ念玉極ノ理ナリ

一町中ニテモ堂丁三條十トノ際昌ノ地ニテハめ々ぬノ飢饉  
ニテモ餓死ニ及フモノハナキハ然レハ邊土才一ナリ  
一小野を清藏口町頭西院丹波口東寺伏見御道粟田  
口ナトノ邊ヲ見立ソノ貧人多キカヅキヲ見立テ色色ノ  
寺或ハ三ヶ寺五ヶ寺町ナカニテハ或ハ一ヶ寺ニヶ寺へ命シ  
テ其寺ミラカエラニテクワスヘシ寺僧モ死ラスクヒ人ヲ  
イカストハ元来ノ役目ナレハトクトカテシサセテソノ寺ノ  
桶釜ヲ用テ煮トノフヘシ役人モ外ヨリ用ヒスレテソノ寺  
ノ僧下人ニカスハシモ又法アルヘシ法ハ一ヶ寺ニ人数  
百人ト心得ヘシ粥米ハ精二斗ナルヘシソレヲ一日兩

度ニ用スヘシ先ツ朝一斗調フ先寺ノ門ヲサシテ門ノ外  
与次郎ニ三人程番ニ付テ是未明ニ粥ヲニテスコシサ  
マシラケルツクモ入テ米ニテ一合ホトノ積リイル、柄  
杓ヲ多クコシラヘ夫ニ一盃ツクミテ一人ツ、門ヲ入レ  
サマニ施スヘシ夫ヲ受タル者スコニ内ニ入テ寺ノ内ニ食フ  
ハシカクノ如ク百人マテトラスルコトハ半時モカ、テ又ナリ  
ソレラクミテアテカフモノモソノ食ニウクルモノ、内ヲヘ  
ラミテニ三人ツ、カワリクニサセソノモノハハカオフトリニ  
又一ヒシヤクツ、アタフヘシ玉極ウヌタル者ハ多ク与フレ  
ハ死スルナリ用捨アルヘシア、リウエ又モノニカユラクマスヘ

シ寺ノ僧ニテモ下人ニテモ一人カ、リオレハ一斗ノ粥ヲ煮ル  
ニハア、ミルナリ百人、満テ粥尽ルサハ門ヲシメテモハ  
ヤイレス扱カユヲ施スモ門外ノ与次郎ハ不疑ウ寺ノ  
ウチノモノニテモトセヨカクセヨト急外ナル言葉ヲ出スヘ  
カラス乞食ノ分ハ門トメニテ出テ又カラハ皆町々ノモノ  
トモ也然ラハ市公儀様ヲ粥ヲ扱下ルウ難有存シイタ  
タカレヨナト、テヨクアヒシロフヘシ

一 先ツ施ユスヘキ日限ヲ定メテ京中洛外迄フレラナシテ  
何ノ方角ハ何方ノ寺何方ハイツカタト定メテイタ、キニ来レ  
一日ニ合粥ヲ扱下ルソノ心ニテ糸、ハトヤヘシ然レハ



面ノ寺ヲタノミシニ、公儀ナリト作付寺ノ内へ  
又頼ミテ晝ノ食ニエサセ成トモイタスヘシ左記ノ軍ハ寺  
ニ記シ主本寺ヘトケ誰ニカヤウノ施ヲ仕タルトナリ  
上本寺ヨリ又書付ラ、公儀ノ御上也寺ニテスヘキト思ハ  
寺ノ難義ニナラヌ故ニ人ヲモロスカサナクハ寺ノ其料ヲア  
タフルカ如右寺ヲ用ルト当世ノ活法ナリ諺ニ云ル禍  
モ三年ヲケハ用ニ立トハ此類カ扱え私ニ人ノ餓死ヲウレ  
ヘテ食ニテモホトコレ度思フニモヒロク救ハンモカ及ムス  
又御意ハ相救フノ義モ有之ヲソノ餓ヲミルニシノヒサル  
有施サントスレハ前ニ云ル如ク餓人ヲ取ツキ施ス

不能ノミナラス却テ害出ヌヘシサレハ我カノ及フホトヲ  
スクヒテ費ナキ惠ミヤウアリコレハ私シトナレハシルサズ  
志アリテナサントヲフ人能ク考ヘテ行ヘシ

社倉畧法

古人社倉法色ミト時ニ臨ミテ行タル跡<sup>レ</sup>見ツレモ今ニ行  
シ難ンソノ意ヲエテ共臨ニナスハ故意ヲ失ワサルヘシ  
サレハ町ヲ救フ<sup>一</sup>農人ヲ救フトハ同シタル<sup>身</sup>ヘシ土地ノ遠近ニ  
ニテモ政ハ千カフ故國中ハ計<sup>九</sup>一ニシテ自賦セン野ハ計<sup>一</sup>  
ニシテ徹ト云ルタ<sup>七</sup>ミルヘシ今ノ時ニシテ社倉 意ヲ行ワ  
ントナレハ高一万石ノ所ニテ八年貢四ツモセヨ<sup>五</sup>ノニモ  
セヨ四ツ一分ニスル仕税<sup>五</sup>ヘシ四ツ常免ナラハ四ノ上ニ  
五種民ニ出サスヘシ君ノ収ムル四ツヲ上ニ三分九半ニ  
トルヘシ然ハ一万石ニテハ上ニ三千九百五十石オサメテ



下ヨリハ四千五十石上ルナリソレニテモ元来民ヲ十分ニ  
トリタル上ナレハ定メテ出スヲ迷惑カルヘシ惣ニテ民  
ヨリ出スモノハ上ノ利ニモナラス下ノ利ニモナラスシテ捨タル  
モノ相忘ニアルモノトテ吏ノ盜モノアレソレハ却テウツカ  
ナリソノ盜ヨリシテ費タルトイカントナレハ忿度シテリ  
タル中ニテハマキラワサレ又モノナレハ米一俵カスメントスルナ  
ハ三俵モマキラワシテ中ナラテハナラ又モノニ役人モ不届  
トハイヘ氏今ニテアリ来リタルコトニテオノレハシメテカスノ  
タルニモアラ子ハ一際ニ答トモイヒカタシソノ合点ニテ大擧  
クシケルモノヲ今サラニ罪ニ行ワシムコトナリソレモ

イタメヌ概ニシテ今ヨリ盜ニ又概ニ役替ヲサセ跡ヨリ来ル者  
ハ小擧ニテシラサル程ノアテカヒラシラソノ外ノカクレタ  
ル費ヲハブキナハ民ノ出ヌ半分計ハウマルヘシソノフケ  
ラ民ニ云キカセテ志アリテオアルモノニ吟味サセ無用ノ  
ツイヘラヤメサセナハタトヒ半ケ多ク出ストモマタヨケイ  
有ヘシ上ヨリ下ニモぬ砂ノ類多シ是亦吟味ノ仕儀アル  
ヘシ學志ナキ人ニサセハ下ノイタミテ難儀スルコト多カ  
ルヘシ仁愛ニテモオナキ人ニセシメハ当分上ノ難儀タル  
ヘシコトニテ西方ノ餘り百石ヲ倉ニオサメハヨキ社倉タ  
ルヘシ年貢モ上ヘラサメテカサハ僅五十石ニテモ出スハナ

義成モノナリソレヲ半ケ通リトラ又ハトリタルモ同シ  
也故ニ收納ノ寸ニ行フヘシ当分ハ右ノ百石ヲ所ノ庄屋  
ニ成トモ預ケ置テ夏ノ中氏食ノ乏キ寸歩食ヲ願フ者  
アラハツレミザ宛カスヘシ西鄰庄屋ノ請合ニテカスヘシ  
利足ハ米十石ニアラ麥一石ヲ上ケサセ是モ志、社倉ト  
シテ収ムヘシ五年如此セハ一万石ノ下ニテハ元米五百石  
出來ルシ刈麥モ又五十石モ有ヘシ是ニテハ大抵餓死ハマ  
又カルヘシ若仕合ニテ十年豊年ナラハ元米千石、麥百石  
モアルヘシ惣ニテ飢饉ノ年ハ大方夏コロヨリ知ル、モノナリ  
左ねノ年ハ麥米比ニカスヘカラス米多カクナラハ米ヲ皆

ウリテ麥ヲ沢山ニト、ノヘ置テ窮民ニアテ行フヘシソレ  
ニテハ百人救モノカ二百人ハ救ワル、ニ飢饉ノ年ハ役人  
ヲマワシテ一村ニキリニ吟味シテ食ナル食者タルコ  
トキノ者バカリヲエラヒテアタフヘシ倉米多ク成テコ  
ト欠又寸ハ此法ニカキルヘカラス

社會法大意

近年打ツキ大變多シト云氏幸ニ民ノナリトセツカラテ  
今ノ饒カナルコトタダヒ希ナルサレト諸物ノ價沸騰シテ人  
ニ物ノエカクキラクルシムコレハソノヨル所アルニヤル所  
トイフハ此比金銀ノ<sup>取</sup>辨<sup>辨</sup>テ玄アヒクナレル故物ノ價ヒ  
高クナレリ然ルニ人心ハ日ニ浮華ニナリユキ儉約ニ  
シタカワスシテ儲ヘアルモノ少ナケレハ一旦五穀ノミノラ  
サル年アラハ飢死ノ者少ナカルマジ其時<sup>ノ</sup>ソ<sup>ノ</sup>ミテ俄ニ  
コレヲ救ワントセハ府庫ヲ空フス氏及フヘカラス國君郡主  
モ公私ノ用ニ費多クシテユタカナル年ダニ餘リナケレハ

タトヒ志アル所ノ飢<sup>等</sup>ヲイカンシ玉ワンヤサアルトモ  
見殺<sup>ニ</sup>モナルメンケレハ豫<sup>ノ</sup>心ヲ用ヒテ其倫ヲナスヘキ  
コト才一ノ急務ナルヘシ故ニ古聖賢民ノ産ヲ制シ玉フニ  
三十年耕シテ十年ノ儲ヘラ存セリ一年ノ儲モナキハ  
國トダニ云ズトイヘリ堯<sup>ニ</sup>九年之水<sup>ニ</sup>三年ノ早アレハ天  
地ノ變ハ聖人モ免レ玉ワスサレト聖人ハ豫<sup>メ</sup>其倫ヲナシ  
テ志變ノ道ヲ尽シ至ヘハ民ノ水旱<sup>ニ</sup>苦ム<sup>ト</sup>ナシトヘ  
ハ家<sup>ニ</sup>居ルモく夏ノ暑キ寸ヨリ冬ノ倫ヲ設クヌレハ寒  
サニアタリテモコ<sup>ノ</sup>ユル<sup>ト</sup>ナキ<sup>ト</sup>ヒト<sup>ン</sup>暴君ノ世<sup>ニ</sup>豊年  
ハ常<sup>ニ</sup>多ケレト華侈<sup>ニ</sup>民ヲ虐スレハ水旱<sup>ニ</sup>アヘン苦<sup>ニ</sup>

ヒトシタ、其備アレハ徳、禹湯ニ非ストイヘ、氏民ハ三代  
ノ沃ヲ蒙ルコトシ其備ナキレハ仁心仁聞アル君ト雖  
民ハ桀紂ヲ虐ニ苦ム故ニ孟子堯舜ノ君ニ仁政ヲ以テ  
セサレハ天下ヲ平治スルヲ不能ト言リ夫救民ノ法ニ  
ツアリア、フカシメ備ヲナスハ上ナリ時ニ当リテ藏ヲ開  
キテ民ヲ君ヲハ次也俄、ノソミテ粥ヲ作りテ僅クニ  
ソノ死ヲ救フハ下也今ノ国君郡主平日ノ費多キニ  
給リカタクテ或ハ諸士ノ常禄ヲ減じ或ハ時ニ先チテ  
民ニ收ル人多ケレハ時ニ當リテ荒ヲ開ヘキニ積ル未  
ナシ餓、ノソミテ粥ツクルガリノフモ易クハナシ得ヘカラ

ス只アラカシメ備ヲ設ルコトハ甚カタキニ似テ志ニダ  
ニアレハ却テヤスキ野ナリ其時ヲ失ハハ又益ナキア  
リ宋ノ蘄軾<sup>野謂</sup>君ハ数万ノ費アリテ民ニ一毫ノ益ナキ  
ハ庭カリツル故ニ今ニ當リテ王制ノ三年耕有一年之  
食ノ法ハ元ヨリ行ヒカタカルヘシ唐ニテタニ漢以來ハ  
ソノ意ヲ以テ法ヲタテタル人モアリ隋ノ高祖年中  
ニ義倉ト云テ置タルヨリ宋ノ世マタ其<sup>極</sup>ニ從ツテ行  
フ人多シサレト時異ニ地殊ナレハ常法トナシカタク独リ  
朱子ノ社倉ノミ惠ミテ費ナシトテ象山ノ陸先生モ甚  
是ヲ稱シ玉ヒソノ知、按山先生トコレヲ用テ民ヲ救

ヘリソレモ吏ニ私アルモノアレハ行カタシ慎正ノ人ヲ扶  
フコト才一ナルヨレシ司馬温公モノ玉ヒテ陸子モ一タコレ言  
アリ此外平價ノ法トテ米ノ價ヲ三段ニキクノ其年  
アリテ下直ナルオハ中ノ價ヲ以テ上へ買上ケ甚ミノ  
ラスンテ高直ナル年ハ又中ノ直ヲ以テ上ヨリクタシ  
賣ナトスル法モアレト是ハ日本ニテ津輕ナト云外ノ通  
用ナキ國ナトハ行ワルヘキカサクテ天下統一統ノ政ナ  
ラテハ一國ナトハ行フヘカラスンニ<sup>元</sup>君富ミ玉ヒテ饒カナ  
ル寸ノヲナルヘケレハ今ノ代ニハアヒ難ナルヘシ夫社倉ト  
ハ一社ノ地ニ倉ヲタテ、米ヲ儲ヘ置テ以テコレニ名

付ケテソノ法米六百石ヲ上ヨリ請ヒ受ケ夏ノ頃民  
ノカテツナキ寸是ヲ民ニカシ利息ヲ加ヘテコレヲ返ス  
ミノリ悪キ年ハ其利ノ半ハヲ赦シ甚悪キ年ハ其米  
バカリラカヘシ納々十四年ニテ用テ其利米ニテ倉三間  
ヲタテ、元米六百石ヲ上ヘカヘシ餘リ三千石アリシラ  
右ノクラニツメ置テコレヨリ民ニカスニ利息ヲトラス  
只ヘリシロシテ一石ニ三分ツ、ヲ加ヘテ加ヘシ納々誠ニ  
良法ト云ヘシサレハ身一ツヲ送ルモ朝夕ニ營ミテ夕ノ食  
トス三五口モ若クモハ一月モ前ヨリ心ヲ用ヒサレハ  
ソノ人ヲ害フコト不能百二百ノ人ヲ召使フ主人ハ

一二年モ儲へサレハ必スユキタリテ餓ルモノ多カル  
へシコレヨリハカリシレハ一郡一國ノ民ヲ治ルニハ三五  
年又ハ七八年ノ積リニアラスンハソノ歉年・シフサ  
クフ不能タトモ金銀珠玉ハアマリ有レ炊ヒテ民命ヲ  
救フヘキニモアラヌハ遠ク救民ノ儲へ無シハ近キ熾  
死ノ患アルへシ民ノ菜色ナキコト已ニ三十年ニア  
マレハ聖人ノ世トイヘ凡三十年ニ一変スルハ氣運ノ常  
数ナレハ近キホトニ不登ノ年アルマヅキニモアラズハ  
今ヨリ儲へズハ有ヘカラスソレサヘ七年ノ病ニ三年ノ  
艾ナレトコレヲモナサズンハ終身及フベカラス殊更今

年ハ農作甚タ望ク風水ノ変モナケレハ百年ニモア  
ラサル豊年ナリト巷ニウタイテ喜ヒアヘルコトナレトコトニ必  
スコレヲナサズンハイツレノ内カ行<sup>時</sup>ハ<sup>ハ</sup>易カ<sup>ヤ</sup>ラ<sup>レ</sup>以今時ニ  
行ヒ易カラシコトヲハカリテ社会意ラ述侍ルノ左ノ如シ  
一 高一万石ノ領地四ツニモセヨウモセヨ免ラ定ルサソノ  
年貢ノ外ニ五登通り加ヘテ收メシムヘシ五登トハ僅  
ニ高一石、五合、ノツモリシ一万石ニテハ元米五十石  
ニサレト定リタル年貢サヘ民カ一盃ニテ定ムレハ其上ニ  
テハ僅トイフトモ難儀ナル由ヲ云テ必受無又ヘシ其時  
誠實ヲノヘテ是君ノ御用ニアラス異日水旱ノ為ノ



備ニテ君ヨリモ是レホト出し玉フ旨ヲ告固アセ得心セ  
シムヘシ扱又君、收ル四五千石ノ物成ノウキニテモ夕  
五釐トホリヲノソキテアトラ納ムヘシソノ、ゾク所ノ  
五釐ト氏ノ加ヘ出ス所ノ五釐ト合テ一分トナル是レ一  
万石ノ高ニテハ元米百石ナリコレヲソノ村ノ庄  
屋ノ藏ニアツケ置ヘシ君ノ倉ニ納ムヘカラス元米村ニ  
倉ヲ立ヘキナレソレ程ノ餘計ナケレハ藏ヲ立レマ  
テ先ツ預ケ置ヘシ或ハ城下迄キ所ハ御城ノ明キハ藏  
或ハ矢倉ナトニツク置モ可ナリ扱貧民ノコレヲ借ラシ  
テラ願フアラハソノ分際相忘ラ考ヘ其保民或ハ親類

ノ請合ヲ以テ己ラカシ冬ニ至ラ利息ヲ加ヘテ收ムヘシ一  
人ニ多クカスヘカラス若シタリニコレヲ借スナハ利ノ為ニ  
カルモノ多ク貧民ノ救ニハナラヌモ、惣ニテ早ク民ヲ  
ヨロコハセント思ヘハ必ス惠ニテ費ルモノ、随分ヲシテ置テ  
大切ナル用ニハ一人モ殺サ又仕方アリ也如此シテ五  
年儲レハ高一万石ニテハ元米五百ト利息ヲ合テ六七百  
ニモ及フヘシ八九年モ積リテ事カ、又程ニナリナハ倉  
モ立テ、ソレヨリハ君ヨリモ出サス民ヨリモアツメス利息ヲ随  
分輕クシテカスヘシ其利米ニテハ貧キモノヲエラヒテア  
ツル凡路橋ノ修理ニ民ノカラ不用取ニナリ凡堤河除ノ普

請ニ用ルル又画替処替ナトアラハソノ米半ハ君へ引トリ  
家士ノ引越ノ料トシフトノ半ヲ民ニワカナカハストモカク  
めめ税ニモナリヤスキコトナリ又ソノ如ク目ダ、ズシテ  
自然ノ軍用ノ備へニモナルナリ

常憲院様御代及中ノ民ノ憐レ信ニ寸救ニナルヘキアアハ  
可及言上ノ 作アリソノ、千ガシツ、御ノケ米ト云一  
ラセラレケル人モ有トカマソレモ甚ク僅ニシテシカモ打後  
キテモ行ワレス君ノ御米計リニテハ多ク除ントスレハ御取  
箇ツクナリテ国用ニ給セススクナク除ントスレハ御僅ノ儲  
ニナルホトモアララスシテハテハ其米ハ何ニ成タルモ知レ又私ニ

ナレモ有リ其時ニ社倉ノ心アル人モ在リシヤ残多リナ  
リ免角当年ノ如キ豊年ヨリナシ始メスニハイツレノオニカ  
善政ヲ行ヘキヤ先年京師ノ貧民ヲはるアリテ口ノ  
數ヘテ各鳥目ヲ玉リシテト誠ニ治時ノ賑ニハ惠シテ不費  
良法ニウカシ米ト云コト昔ハ益モ有リシヤシラス今ニ在テ  
ハ甚無益ノコトニ今年米價甚貴イラ以テ町人ヨリ願ヒ出  
タルトカマサレトソレモ眞實ノ願ヒニ非ス京ノ町ノ困窮シタル  
ヲ上ヘシラシテト為ト又ハ御カシ米出ルトナラハ其踏ニテハ  
米價賤クナラント思フ心ヨリ申ルニソノ安外ウカシ米ト  
云コトハ町人ノカツテヨロコバヌナリテ亦モ千タルモノハ一

一人ニ五升三升ノ米ハ必カリテモ無詮ナリ各家者ハ  
餓及ヘ凡一合モウケスヨテ以テ不願ナリ今ニ當リテハ  
至貧ノモノ、為ニナルベキ政 人心ノ浮華ヲオサメテ安  
ニツク税ナルコトニ急務ナルヘキカ今ノ世ノ中ニ盛昌ト云  
テヨロコフコトハ多クハ浮華ノ所作ナリ一旦毀譽ニカ、ワ  
ラスシテ始終ノ治ヲハカルヘキコトニヤタシ人ヲ扱フニハ  
別シテ口傳アルヘキナリ此法天下ニ一統ノ法ニハ如何アラ  
於私領不得巳ノ大畧ナリ為天下論セコトハ卑賤ノ及テ所  
ニアラスサテ此社会法未タ民ニ命セサル前ニ君ノ一決大事  
ナルヘシ君必定コレヲ行ヒ玉ワンノ心ニルギ色レハ其誠心

ニテ行ワレサルコトハナキコト此命出タランニ民ウケカワ  
スニハコレヲヤメ玉ハントナラハ必定行ワレマシ若民ウケス  
ンハ君ノ収納ノ内ノ五釐ノ分ヲツミテ待玉フコトニ三年  
モセバ其誠實ヲ民ミテ感セサランヤ若感セスニハイツマ  
テモ君ヒトリナシ玉フヘシ是ニテモ五年ノ所ニ十年ヤレ  
ハ今シテナルヘシ急效ヲ見ルハ私ナルヘシ

正徳三年癸巳七月十八日 三輪希賢誌

昌世曰庄屋ノ私ノ藏ニ預ケ<sup>テ</sup>去ヘカラヌ<sup>ル</sup>郷藏トテ村ニ  
年貢米ヲ收ムル藏アリ其中へ入レ<sup>テ</sup>名主組頭等三四  
人立合封サスヘシ

又曰矢倉ナトニ詰テオクモ君ノ藏ニ收置ニ同シケレハ少シ  
ニテモ畢竟其所ノ為ニスルナレハ右ニ言如ク郷藏ニシキ民ノ  
心ヲ安スル意モ有ヘシ

又曰古ハ暴君汗吏ノ邪ナル政サヘ時トシテ行レ<sup>テ</sup>苦ミナカラ  
モ年ヲ積<sup>リ</sup>テアリ今仁君上ニ在リ賢臣下ニアリテ事ヲハ  
リ往カハ置郵シテ命ヲ傳ルヨリモ<sup>ハ</sup>ハヤカルヘシ一日全  
志ノ人問テ曰今元米ヲ積ム<sup>ル</sup>民ヨリ新タニ出サス下ヨリ<sup>ハ</sup>

ツメシテテ少シツ、モ為スヘキノ漸有リヤ予荅曰アルヘシ當時  
國ノ城米ニ詰ル<sup>ル</sup>テ上ヨリ<sup>テ</sup><sup>テ</sup><sup>テ</sup><sup>テ</sup><sup>テ</sup><sup>テ</sup><sup>テ</sup><sup>テ</sup><sup>テ</sup><sup>テ</sup><sup>テ</sup><sup>テ</sup><sup>テ</sup><sup>テ</sup>玉ヲ米<sup>ノ</sup>城<sup>ノ</sup>高<sup>ニ</sup>志<sup>シ</sup>  
テ有リ 常憲院様<sup>ノ</sup>代<sup>ニ</sup> 天和元酉年 元禄十二年  
文昭院様<sup>ノ</sup>代<sup>ニ</sup> 正徳三年 江戶淺草<sup>ノ</sup>代藏<sup>ハ</sup>其内<sup>ニ</sup>收  
メ玉フトイ<sup>ハ</sup>氏<sup>ノ</sup>從<sup>レ</sup>餘<sup>ル</sup>米<sup>ヲ</sup>少<sup>ク</sup>ナ<sup>カ</sup>ラ<sup>ズ</sup>此<sup>ノ</sup>城<sup>ノ</sup>主<sup>ニ</sup>命<sup>シ</sup>テ  
先<sup>ツ</sup>城<sup>ノ</sup>近<sup>キ</sup>村<sup>ニ</sup>へ<sup>テ</sup>利息<sup>ヲ</sup>カ<sup>コ</sup>ロ<sup>シ</sup>テ<sup>テ</sup>夏<sup>ノ</sup>ノ<sup>カ</sup>シ<sup>キ</sup>秋<sup>ニ</sup>至<sup>ル</sup>テ  
右<sup>ノ</sup>意<sup>ヲ</sup>用<sup>ヒ</sup>テ<sup>テ</sup>納<sup>メ</sup>シ<sup>メ</sup>テ<sup>テ</sup>年<sup>ヲ</sup>カ<sup>サ</sup>子<sup>ハ</sup>其<sup>ノ</sup>効<sup>有</sup>ヘ<sup>シ</sup>効<sup>シ</sup>  
ヲ<sup>タ</sup>ニ<sup>見</sup>及<sup>ハ</sup>ス<sup>ル</sup>村<sup>ノ</sup>ノ<sup>百</sup>姓<sup>モ</sup>此<sup>ノ</sup>事<sup>ヲ</sup>願<sup>フ</sup>ベ<sup>シ</sup>民<sup>ノ</sup>心<sup>悦</sup>テ  
ノ<sup>上</sup>ハ<sup>ハ</sup>あ<sup>ら</sup>ん<sup>ニ</sup>モ<sup>ナ</sup>シ<sup>キ</sup>安<sup>カ</sup>ル<sup>ヘ</sup>シ<sup>減</sup>ミ<sup>民</sup>ヲ<sup>款</sup>ニス<sup>ル</sup>ヨリ<sup>ハ</sup>親<sup>ク</sup>外<sup>レ</sup>  
云<sup>フ</sup>空<sup>ナ</sup>リ

又曰此城詰米ヲカス一末年ヨリナサントナラハ当久  
其城近キ伊代友為人程ニ命シテ手代一人ツ、出サセ  
主ノ家来立合米ノ負教ヲアツク封シ立翌年ノ夏ヨリ  
ナスヘシ又秋ニ至リ元米利是ノ俵扱トアラタ封シ置ヘシ  
城主ノ手前役人ヲ疑フニハアツキ、一ツラ公ニ正シクスルノ  
一助ナラン歎コシテ行フ仕形品ニアルヘシ後ノ君子ヲ俟ト  
云

### 濟厥畧記

民ハ國ノ本ニシテ食ハ民ノ天ナリ是故ニ先王ノ政食ヲ  
足シテ民ヲ養フヲ以テ本トス漢土ノ古ニアリテハ三年  
耕シテ一年ノ食ヲアマシ十年耕テ三年ノ食ヲアマシ  
三十年ニシテ十年ノ食ヲ儲フ旱乾水溢ノ変アリトイハレ  
民菜色ノ患ナキハコノ備アルヲ以テナリ春秋戦國ノ  
寸王政衰微スト云凡列國猶倉廩ノ豫備アリテ飢歎  
ノ寸其民ヲ賑恤シ不足ヲ補ヒ不給ヲ助ケ又隣國  
糶糴ノ一往、ミヘタリコシテ十君國ノ豫備ニシテ民  
間ニ令シテ外クワヘシムル一ニアラス三代封建ノ世ハ盛衰ア

リト云凡三十上ノモノヲ以テ下ヲ救フノ意ハ同シキ  
リ秦以後天下ニ君郡縣ノ世ト変セシヨリ民政ノ  
キモ大ニ変シ士民雜糅シ才智アル者ハ下民ヨリ起リ  
テ將相ニモ至リ又致仕スレハモトノ田畝ニ歸ル是ヲ以  
農民ノ數前古ニ十倍セリ朝廷ノ官人多シトイヘ凡  
世祿ノ者世モナク五等ノ諸侯ナケレハ其國ニノ臣僚ナ  
ク耕サスレテ食フモノ數オノスカラ多カラザルナリ故ニ  
郡縣ノ世ニテハ民君ニ穀ヲ儲ヘシムルモ其勢ナシ易キナ  
ナリ漢以後隋唐宋元ニ至ルニテ常ニ義倉社倉平  
糶折中廣惠豫備ホノ倉法陸統ト起レリコレ封建

郡縣ノ異同ニ從フテ然ルナリ今我邦ニ於テハ郡縣  
ノ古制ナルニ變リ其名ヲ存スルノミニシテ群后百辟  
封建ノ實ヲナセリ然ラハ儲畜若民ノ政ヨロシクコレヲ  
三代封建ノ遺意ニ本ツクヘシ全ク漢土郡縣ノ制ニ  
効ヒ難キナリ然ルヲ僞者徒ニ義倉社倉ナトウエモ  
ナキ良法ト心得テ人主ニ勸ムルモノアレ凡其法モト三代  
ノ時ナリ下ヲ救フノ法ニアラサレハ民情ニツイテス、  
マサル所アルヘキナリ抑我邦沃土多クシテ五穀ヨク  
生スレハ今ニツイテナンノ不足ノ事モナレトイヘ共漢ノ  
中古以後ハ比スレハ耕サスレテ食フモノタ、十倍ノミナ



ラス 天朝 幕府<sup>幕府</sup>ノ百官ノ外大ハ列國各々  
多ノ臣僚アリ又寺社ノ數亦十萬ナルヲシラスシテ皆不辨  
シテ食フモノ其食ヲ所モ十萬民ノ手ニテ養フナリ然  
ルヲソノウヘニ民百ニテ穀ヲ儲ヘシメントスルハ是ヲ  
三代ノ遺ト云シヤ然レバ今ノ人主宜シク自カラ儉徳ヲ  
慎シミ<sup>三</sup>富奢ノ用ヲ省キ是ヲ以テ漸ク豫備ノ倉米ヲ置シ  
メ臣僚タル者モ亦<sup>四</sup>人主ノ素ヲ体シ自ラ其衣食ヲ  
減シ斗升ノ微ヲ積テ人主ヲ助ケ平日民ニ<sup>五</sup>省<sup>六</sup>ケルノ恩  
ヲ函飢ノ寸ニ報エヘキ也是上ノモノニテ民ヲ救フノ本意  
ナリ<sup>七</sup>政ノ盛ナルニ及ハスト云凡<sup>八</sup>其遺意ヲ存スト謂ハシ

扱此趣意ヲ萬ト會得アリテ其本立タル上ハ其法ヲ扱  
ルニ至リテハ当今ノ<sup>一</sup>凶災ヲ斟酌シカノ社倉ノ意味ヲ  
モ參ヘ用ユルヲ有ヘキナリ  
一王制ニ三十年ノ通ヲ以テトアリテ世年ヲ限リト立  
ルハ何ソヤ世ノ字ハ三十ニシテ尾ヲ曳クト云フテ三十  
年ヲ一世トス人世一變ノ期ナレハナリマタ三十年ヲ  
二ツ令セテ六十年ナレハ是ヲ甲子一周天道一變ノ  
期トス凡<sup>二</sup>三十年前後トニ<sup>三</sup>凶歉アリ六十年前後  
ナト凶歉アルハ是天運ノ消長ナリマタ丙午丁未  
前後トト古來往々<sup>四</sup>変事アルモノ漢土ニテモ丙午丁未

鑑ト云云アリテ丙午丁未ノ災ヲ集メ立キシナリト  
邦ニテモ近クハ天明六七ノ丙午丁未大飢饉アリ享  
保十七ノ飢荒ハ丙丁ニ後ル、十五年ナレ其時ヨリ  
天明迄凡ソ五十五年ナリ大畧此前後ニ過ス近年  
打候キ豊穰ニシテ飢饉ノ多クハシル者モ少ク世  
間上下治安ニ狎シ華美奢靡ノ俗ヲナシ外面ハ繁栄  
ノ姿ナレ凡多クハ浮華ノ習ニシテ内實ハ虚乏ナルベ  
シ一旦凶荒ノ年ニ逢ヘハ家國ノ責アル者コレヲ救フ  
ノ術アリヤ覺束ナク覺ユルナリ然レハ此時ニ及ンテ  
般乐怠教スヘカラス弟一ニ浮華ノ習ヲ戒メ質素ノ尚

ヲオコシ其思々千シ日ヨリシテ速カニ飢寒ノ備ヲ正  
アルヘシ七年ノ病ニ三年ノ艾トハ此類ノ喻トナスヘキ  
ナリ扱其事理ハ尤ニ少ユレ凡是マテトテモ国用十分  
ヲ得ンテ或ハ不足ニモ有ヘケレハ何ノ餘財アリテ其儲  
ヲ得ンヤ今俄ニ其儲ヲナサントスル凡行ワレサル  
ノ實アルヘシ然レハ其事ヲ成就スルニハ多クノ周旋ヲ  
用ヒサルヲ得スモニライテ人君民ノ為ニスルハ減去  
專一ナルヲ漁頭トナシ必ラ不凶飢ノ苦シミ在ラシメ  
ントノ慮ヨリ第一ニ衣食ヲ減シ用度ヲ省キ僅々  
リ凡年々々ヘス民食ヲツムヘシコシ誠マツムナリ凡

ソ士タル者ハ恒ノ心アリテ義理モ分明ナルヘケレハ人  
君ノソノ通リニルヲ徒ニ視ルハキ理無レハ其ルニ兵起  
シテ分限ニ忘レテ羸餘ヲ存シコレヲ以テ其君ノ及ハ  
サルヲ却ケ平日民功ヨリ小荒ヲウクルノ恩ヲ報ントノ  
忘ルヘキナリソノ通リ君臣接合テ積ニ儲レハ數  
年ノ蓄ニハ餘程ノ表ニ至ルヘケレトテモ過今ノナシ  
其内ハ飢歎イタルマシキモアラヌ然レモ年貢定數ノ  
外民君一統ニタクハヘシムルハ厚歛ニ美シテ上タルモノ  
本意テラサレハ上ニテ積タル米ヲ民間ヨリ借タキ願ア  
ルモノニハ貸シ渡シテ融通スヘシ常年ノ時ニハ聯カ

ノ添米ヲシテ区納セシムヨリ合点ノナレハ兩便トモ  
云ヘシ其上米ヲ積オケハ又凶飢ノ備ヘトナルヘキナリ既  
ニ君臣ニライテ艱苦シテ積ミオクナレハ庶民モ其  
誠意ニ感セサルナラ得ヌ僅カノ添米アルトモ利息ヲ  
取ラレトハ思フニキ歎コノ所社会ノ法ニ類スレヤ  
早急止テ得サルニ悲シハ謂ハユル供道以テ度ヲ使  
ヘハ勞ストイヘ厄怨ニスノ意ニナカラン歟  
一 濟殿初置ノ法五年ヲ以テ基本トナシ十年ヲ以  
テ小成シ二十年ヲ以テ大成ス三十年ニ變レハ一變ス  
ルノモアルヘシ是其大數ナリソノ割リ亦一万石ヲ

二百分ノ一ニワリテ五十石トナル其君ノ高ニヨリ大  
小ニ従ヒ万石ニツキ年ニ五十石ヲ除ケ置ツヘシ  
儲備ノ本ナリ又家中ノ知行ヨリモ其ワリ合ラ以  
銘ハ二百分ノ一ツラ出シ君ヲ助クヘシ万石ニ付君臣  
合シテ大凡百石程ニ定メコレヲ一年ノ儲備トナス  
五年ヲツミテ五百石アリ十方石ノ高ニラツメハ五千  
石三十万石ナレハ一万五千石五十万石ナレハ二万五千  
石ナリコレ米ヲカリタクト願フ村ニハ初年ヨリカ  
シ与フヘシ尤夏ノ頃夫食乏シキナカシ秋成ニ至リ  
テ返納セシム其添へ米ノワリ一石ニツキ五合ツ、収

メシム初ニテモ麥ニテモ麥ナラハ其數ヲ倍ス如此ル  
五年ニシテ基本ヲナスヘシ基本既ニ立タル後ハ非  
常ノ備ヲ重トシ儲米ノ三分一乃至半數ニテハ借ス  
ヘシ残ラスカスヘカラス尤コレハ常年ノ定メニシラ凶飢ノ  
寸ハ元ヨリ其數ニ拘ラス小歎ナレハ添米ヲ取ラス大歎  
ナレハ全クアタフヘンコレノ時ノ備ナレハナリ故五年  
ノ間飢歎ノ年ナクシテ六年ニ至レハ家中惣高ヨ  
リノ加入ニ免スヘシコレヨリ後ハ人君ノ儲米ニ民  
ノ添米トミテ積ムヘカレ民ノ方尹必トナスヘカラス  
如此レテ又五年ヲ經テ都合十年ニ至レハ余程ノ

儲米トナリ大抵ノ凶飢ハ救フヘシコレヲ小成トナ  
スナリ又十年ヲ経テハ過分ノ儲米儲<sup>崇</sup>ニシテ<sup>崇</sup>ナチル  
凶飢ニテモ決シテ一人ノ餓死スルモノアルマシキナレハ  
二十年ヲ以テテ大成ト云ヘキナリ二十年ノ後三十  
年ノ内外ニテ万一凶荒ニ逢タルナハ年来ノ倉廩ヲ  
傾ケテマロヨク賑恤シ餘ス所アルヘカラスコレ人ノ君  
本意ノ有所ナレハナリ其後ニ及ヒテハ再々初登法  
ヲフケ行フヘシ幸ニ凶飢モナキナレバ元ノ姿ニテ増益  
スルノミモシ又年數ヲ待タスレテ凶飢アラハ其儲ヘタル  
丈ケテ以テ救ヒタメヘ其翌年ヨリ初登ノ法ニ返スベキ

一此法ヲ奉行ントスルニハ先ツ親民ノ官吏ヲ劾近  
スヘシ能ク人君ノ仁意ヲ会得シテ取扱フ<sup>一</sup>所要  
ナリ前ニ云所夏分ニ民ニカシ秋成ニ至リテ納ル  
ノ法朱子ノ社倉モカクノ如クニシテ王安石ノ青苗法  
ト異ナラス苟モ慘怛忠利ノ心ヲ以テコレヲ行ワ  
仁惠ノ政トナルヘケントモ聚斂亟疾ノ意ヲ以テスレ  
ハ民ヲ害フエヘンノ法ニテ民ヲ害スルニ至ル則テ青  
苗ノ法ヨクコレヲ一邑ニ行ナヘトモコレヲ天下ニ行フ  
アタワ<sup>サ</sup>ルト云々シキナリ凡ソ民ハ一時ノ便ヲ  
謝リテ後ノ慮リナキ者ナレハ夏カシノ便ヲ兵ニテ

秋ノ返濟ニ苦ヲ訴ヘる故ニモアラス有司タルモノ撫  
字心勞催科政拙ノ心ヲ存シ深クハ情愛ヲ著ヘ強  
テ取立ヘカラジコレ法外ノ深意ナリ又五年ノ後基  
本立タル上ナラモ添米ノ法ヲ存スル故ハ其アニ奸  
民ノ私アヲシテハカリテ也官穀ヲ貴クヒサキテ私利  
ヲ謀ル弊ヲ生スレハ風俗ヲ傷ルノ基ナリ因テ此法ヲ  
存スレトモ其實ハ窮民ヘカシアタフルニハ添米ナク  
テヨキナリ今姑クコレヲ存スルハ法中ノ深意ナリ  
故ニ借米ヲ願フモノアラハヨク其情愛ヲ吟味シテ  
借スヘキナリ又或ハ借米ヲ願フ者ナキナリ有司ク

ルモノ時ニトリテノ取扱方モアルヘキ事ナリトカク  
其人ヲ得ルヲ緊要トナスノミ

一 濟厥ノ場所代官役所攝ノ内ヘ建ヘキナリ其出  
納ノ炭ニシテ非常ヲ戒シムヘシモシ村々ヘ建置スル  
年ハ害アルニシクナレバ凶飢ノ年ニ至リテ他領ノ民ト  
劫掠ノ者アルマニキニモアラサレハ役所迄邊ヘ炭重ニ  
建置ヘキナリ

一 濟厥粟米ノ外何ニテモ夫食ニアツヘキ物多クカ  
キラス民ニ令シテ儲ヘシムヘキ雜穀ハ勿論其外木  
ノ實草ノ實濱手ニテハ海草干物鹽物ノ類ナリ



濟殿、近邊別ニ物置ヲタテ、其品々ヲ納メオカシル  
モ可ナリ

右ニ記スル所、濟殿建置ノ大略ナリ、因ニ從ヒ俗ニ因リ  
一様ナルハカラス、此大意ニ本ツキテ増損對的ス  
ルハ其君ト有司ニテナルノミ

天保二年辛卯十一月

佐藤坦録

閑廠賑粥法

荒歉ノ歲小屋ヲ立テ粥ヲ施行スル仕方云是ハ  
張司農カ救荒十二議ヲ奉トシ唐末元明ノ間諸賢ノ  
名法効驗アリシヲ採テ増補センモノナリ

一親富貧民粥ヲ賑スニハ先人數ヲ改ムヘシ人數ヨツテ  
万事ノ手配ヲナスコトナリ故ニ先村役人ニ申付貧民  
ノ名面ヲ昏出サセ代官自身村里ヲ見廻リ其  
家毎ニ立寄テ貧窮ノ状ヲ見分スヘシイヨミ貧窮ノ相  
違キナラ、小札何某ト昏テ家内銘一枚  
ツ、渡シ此札ヲ持テ何方ノ小屋ニ行粥ヲ申受ヘキ

旨ヲ申渡シ名面扣帳ニ留置ヘシ貧民ヲシテ役人ノ迎  
送シ又ハ往所ニ往来セシムヘカラス代官廻村ノハハ者  
成程省略シ腰弁當ニテ立出ヘシ諸事村里ノ世話ニ  
ナラヌ心得ナルヘシ叔自分ノ苦勞并ニ手間取事ヲ堪  
忍ヒ明細ニ改ムヘシ若施行延引ナシカタク急迫ノ時  
節ナラハ手代ノ内ニテ萬安才辨ノ者ヲ撰ミ名代ニ遣ハ  
スヘシ

### 二 多設粥廠

飢人多ク集レハ混雜シテ爭論モ出来粥ノ手配リモ  
宜シカラス其上小屋一ヶ所ニテハ遠方ノ者往來ニ便

便ナラス仍テ場所ヲ見立取寄リニ數ヶ所立置クヘ  
シ一ヶ所六七十人ヨリ百人ヲ限リトスヘシ又取寄ノ寺  
院ヲ借りテ施行場トスルモ宜シ小屋ヲ作ル費ヲ省クナリ

### 三 審定粥長

數百貧民ノ命粥長ノ手ニタルナラハ粥長ノ人物見立申  
一ノ大切ナリ粥長ノ人物宜シカラサレハ種々ノカン曲生ス  
ルモノナリ村民ノ内萬安ニシテ善事ヲ好ム者三四人ヲ  
撰ミ頭取添役トナシテ取計ハスヘシ

粥長ノ事ハ下ノ分管粥ノ役ノ條ト併セテ稽フヘシ

### 四 振勞粥長

粥長ハ苦学ヲ厭ハス人ノ怨モ身ニ受テテ堪忍朝夕腎  
拵事ナレハ代官ノ挨拶子ニヨニレテ心腹打アゲ申合サ  
レハ粥長心カク尽スヲナシ依テ粥長ヲ申付テハ諸波ヲ  
免シ或ハ羽儀ホ賜ワリ小屋迄村ナラハ拵節代官ノ役  
所ハ呼来シ酒ヲ与ハ遠里ナラハ酒ヲ持セ遣ハスヘシモシ  
飢人取扱空シナラヌ者アラハ谷申付甚キハ引替ヘシ

五 親察廠弊

粥小屋ハ元来悪事ノ藪ト称ス程ノナレハ事々炭竈ニ  
吟味スヘシ吟味ノ仕形ハ代官自身見廻リセサレハ粥長ノ  
戒トスルニ足ラス籤四本拵ヘ東西南北ノ四字ヲ一字ツ、

昏一弁ヌキ取役令ハ東ノ字ニ当リタル日ハ遠近ノ差別  
ナク東ノ方ノ小屋ヲ見廻リ南ノ字ニ当リタル日ハ遠近ノ差  
別ナク南ノ方ノ小屋ヲ見廻リ心ヲ付ケテ吟味スヘシ又粥長  
ニ申付三五日ニ一度ツ、帳面持来タル寸ハ取計方萬ト言  
合勤方出精カ不精ヤノ操ヲ考見ルヘシ少しモ空ミカ  
ラヌ事アラハ速ニ改メサスヘシ宥恕スヘカラス

六 豫備米穀

倉米ハ尽キ易キモノニ其用意アルヘシ買入ハ勿論ナリ或  
ハ富家ニ勧メテ積入サセ何分ニモ手段シテ臨時手交ナキ  
ヤウニスヘキナリ

七 預置採薪

粥ヲ煮、薪多ク入モノナリ前方ニ其用意アルヘシ其外惣  
シテ器具ヲ又ヤウ心ヲ用エヘシ初子ハヨク改メテ渡ス  
ヘシ大小ニ依テ粥ノ盛リニ輕重アレハナリ

八 炭立廠規

飢民ヲ取扱フハ三軍ヲ扱ニ同シ申渡スルハ炭立ニテ明  
白ナルヲ要トス規條ハ一様ニシテ区ニナラヌヲ要トス各面帳  
ハ着到ノ順ニ記スヘシ坐席ノ割ハ概テ立錫ヲ張リ一行一  
行ノ界限ヲナスヘシ施行ノ時刻期ハ辰ノ刻夕ハ申刻定  
鐘大鼓或ハ柝子木ヲ以相圖トス飢民寄り来ラハ帳面ノ

才三胃合の終

順、名ヲ唱ヘ才一行ニ坐セシム才一行坐シ終ラハ才二行ニ  
坐セシム才三才四行ニテモ斯ク如クニ才一行ト才二行ト才  
三行ト背ヲ合ス才三行ト才四行ト又面ヲ對ス發行ニテモ  
皆此ノ次才ニシテ面對ノ間ハ柝桶ヲ以テ往來スルノ道ヲ明  
ヘシ扱粥ノ施スニハ夜令半日ハ左側ヨリ初メ丁日ニハ右側  
ヨリ初メ或ハ下ヨリ初メ日毎ニ順ヲカヒ人後ニ成ノ嘆キヲナ  
キ祝シ施スヘシ一椀通り食畢タラハ柝子木ヲ打勝テ才手  
水ニ立ム暫シテ坐定タラハ才二椀ヲ施スヘシ二椀食終リ  
タル才又相筒ヲナシハ皆歸ルトキハ末ニ坐シタル者ヨリ  
順ヲ進テ立シムヘシ若我終ニ坐ラ立テ金場ニ挂リ

手盛リナトシタル者アラハ即時、小屋ヲ拂ヒ出シ帳面ノ  
名ヲ除クヘシ

九 収留子女

無テ飢民申渡シ子女ヲ捨ルコトヲ禁スヘシ父母貧苦ニ  
堪カ子禁ヲ犯シテ子ヲ捨ル者アラハ村役人ニ申付墨托  
テ役所へ来ラシメ手當シテ娘育スヘシ其捨キ来リタル者  
三ハ酒代取セテ勞ヲ賞スヘシ

十 娼婦止賣婦

娼婦ヲ賣コト及ビ禁スヘシ若夫婦暮シ兼タル者アコトハ夫婦共  
小屋へ呼来シ娼婦ハ小兒ノ守ヲ致セ夫ハ小屋ノ使用ヲ申付

十一 収粮流民

ヘシ暮シ方手段付タラハ何時ニテモ暇ヲ遣ハスヘシ

飢民他回ヨリ来ルナラハ冨寄ノ廣場ニ流民小屋ヲ建流  
民帳ヲ作り来リ次々ニ小屋へシ帳ニ記シ粥ヲ施行スヘシ若  
人数百ニ滿タラハ別ノ小屋へ入ヘシ食非人ニハ別ノ小屋ヲ  
立テ施行スヘシ流民ト混スヘラス

十二 散給薬餌

飢饉ノ後ハ必ズ疫病アルモノナリ時日ノ早晚ヲ論セス人參  
敗毒散ヲ与フヘシ極テ功アリ九味羌活湯香薷散モ宜シ  
但シ多多服シテ効アリ何レ医師ヲ遣ハシ診脉調薬十サ

シムヘレ夏向ハ敗毒散ニ桂苓ヲ加ヘ甘露飲神効アリ敗  
毒敗ノ内人參ヲ用ヒス石膏ヲ加ル方也

以上十二議

扱扱煮粥之人

粥ヲ煮ル人ヲ撰ビ其人飢饉ノ艰苦ヲ身ニ引受テ思ヤ  
ヤル心アリ差配取捌ノ才智アリテ飯人ヲノリミツル器  
量アル人ヲ用エヘシ其人ヲ得タラハ先其計ヒ方調サセテ其事  
ハ如何比テハ如何ニト向唯シテ試ミ見テ而テ后ニ用エヘシ

行勸諭之令

代官自身帳面ヲ持手代ヲ召連レ徧ク鄉村ヲ見廻リ家

居宜シク衣食ヲ足りタル気色ナラハ立寄ラ札子ヲ存子  
勸メテ施行ナサシムヘシ或ハ米何芒ヲ出スヘキ或ハ袋日袋  
人ノ粥ヲ絶スヘキト云フヨリ釣束ニ帳面ニ名ヲ記サ  
シムヘシ但シ強テ勸ムルハナスヘカラス

別食粥之人

飢者ヲ分テ三等六班トスヘシ老人ハ飢ニ堪無ル者故一等  
トシ一番ニ粥ヲ与フヘシ病人ハ別ニ一等トシ二番粥ヲ  
与フヘシガ壯ナルハ別ニ一等トシ最後ニ粥ヲ与フヘシ粥ハ薄  
キヨリ漸クコキニ移スヘシ是ヲ三等ト云男女ハ別ナクテハ叶  
ワス男カニ坐等一側ニ坐セシメ女ノ三等一側ニ坐セシム是



ヲ六班ト云

定散粥之法

太鼓ヲ相箇トス 柝子不ニ 太鼓一通打オハレハ男ハ左側上  
三等ノ順ニ並ニ女ハ右側三等ノ順ニ並ニ扱人毎ニ梳ニ一盛り  
ツクヲフヘシ一梳食ヲワリテ又一梳ヲ与フヘシ三梳止ル  
シ老人病人ヲハ見合セテ半梳ニモスヘキナリ毎日夕食ハ  
人毎炒豆一梳ヲ与フヘシ

分管粥之役

モト一人帳付二人米方二人竈頭一人粥炊一人 壯年ノ婦  
薪取一人水汲一人 粥炊下ハ飢民ノ内 勤ニ怠ル者私

曲ヲナス者アヲハ速ニ追出スヘシ

計煮粥之費

米人毎、日ニ三合ト定ム粥ヲ食フ人毎日増減アリ依テ  
前晚毎ニ帳付ヨリ人数ヲ調ヘテ竈頭ニ達スヘシ竈  
頭人数忘シテ米ヲ賣ヘレモ帳付人数不調法アフハ米一升  
ニ升過料何程ト定メテ出サスヘシ竈頭米ヲ引込セハ多ク  
論ヒス速ニ逐出スヘシ

倫煮粥之具

鍋杓子蓋升ノ水桶全粥桶ノ美用意スヘシ梳ト著トハ  
粥ヲ食フ人ニ持来ラシムヘシ又小屋ニハ必ス臺モモラシ

シクシ

雜記

一 粥ハ朝夕兩度施スヘキ所朝粥ノ時夕粥ノ分ニ合ツ、  
 米ヲ渡スモ空シ其人ニ問フ望ミ任スヘシ  
 一 飢人ハ身寒腹餓故粥ノ熱キヲ説ヒ多ク食ル此ニツク皆  
 身ヲ殺スノ道ナリ依テ粥ハ早煮テ熱ヲ去ヨキホトニアタ  
 ニカナルヲ与フヘシ急ニ食ハシムヘカラスソコニ与フヘシ存分  
 ニ飽シムヘカラス小屋ノ内何方ヨリモヨク見ユ所ノ壁ニ帋巾  
 札ヲハリ 熱粥ヲ食フ者ハ立処ニ歿ス 大食  
 スル者ハ立トコロニ歿ス ト大字ニ昏テニ歿ヘシ笑野モ

張置クヘシ又時々右ノ二行ヲ高ラカニ讀倒スヘシ各筆  
 ト盲人ノ為ニノミナラス盲人ノ警ナリ  
 一 新シキ鍋ニテ煮タルモノ飢人コレヲ食ヘハ必ス死ス依テ  
 旧鍋ヲ用ユヘシモ新シキ鍋ヲ用ルヲアハハ寺院或ハ酒  
 家ホヲ尋テ旧鍋ト引カヘ得テ用ユヘシ  
 一 飢人嬰兒ヲ抱キ来ル者ハ二人分ノ粥ヲ与フヘシ嬰兒  
 ノ分ハ持归ルニカスヘシ  
 一 嫉娘ハ粥ヲ与ヘテ後半月分ノ米ヲ計与フヘシ此米用ヒ  
 尽シタラハ又来リ受ヘキ旨ヲ言渡スヘシ是ハ少婦処女  
 ノ恥ヲ忍テ大勢ノ中ニ立交ルヲ厭フナリ

GANSHODO SHOTEN  
KANDA TOKYO  
店書堂松蔵

№  
¥ 3.50  
6. 9. 35.

一 飢人集レハ穢臭病ヲ生スルモノナリ故ニ多ク蒼ホヲ焚  
ヘシ又醋ヲ火ニソキカケテ薰スモヨシ  
一 粥ニ生水ヲ入レテ食ヘハ暴死スルモノナリ炭ニ禁スヘシ  
一 粥ヲ賑ハスハ十月初旬ヲ始メトス此トキ草根木皮未タルニ  
由ナシ其止ムハ翌春三月初ナルヘシ此時草木芽已ニ出ル  
ヲ以テナリ

東京大学経済学部図書館



5505536614